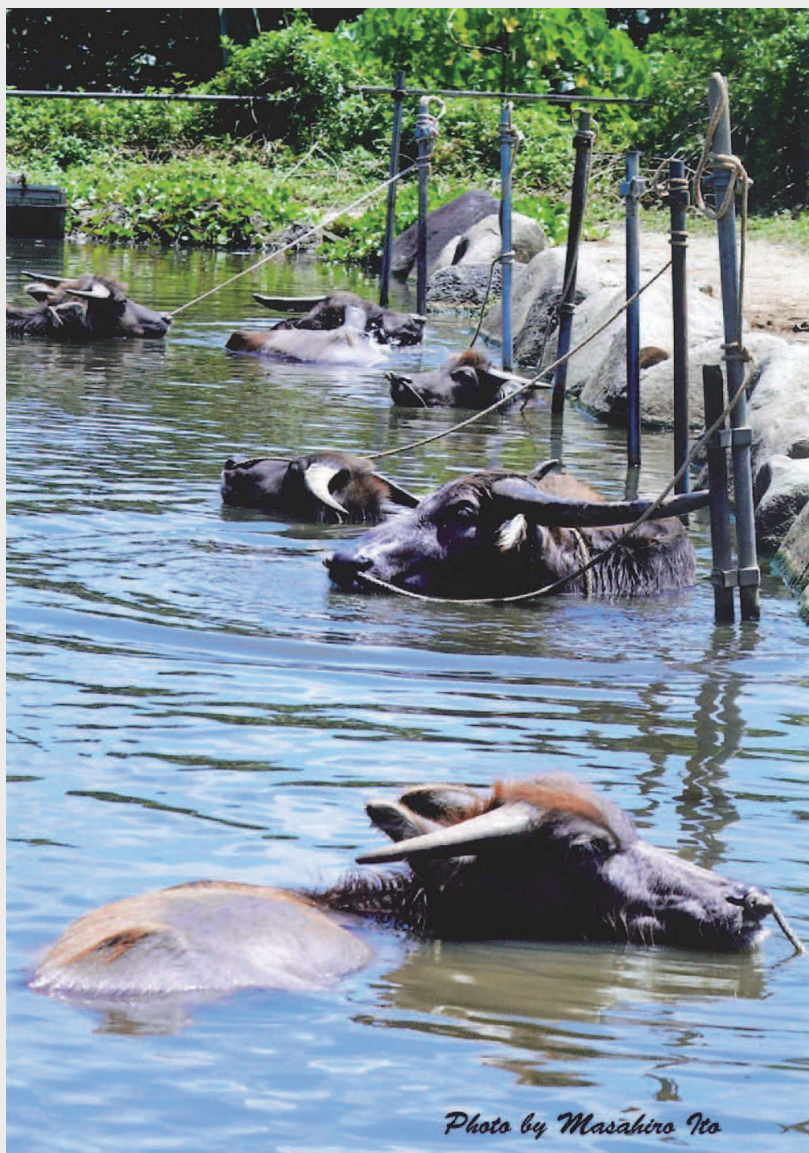


善隣

No.510 通巻777

2019年（令和元年）12月1日発行（毎月1日発行）

2019 12





「国際交流委員会」(2019年11月6日)



「講演委員会」(2019年11月7日)

善 隣 目 次 2019年12月号

公開講演会記録

国旗と国歌は国際理解の第一歩……………吹浦忠正	2
生麦事件から明治維新へ……………小暮幹雄	10

さくらびと

北に帰った人たちが残していったもの……………細川呉港	18
----------------------------	----

陶々俳壇

……………馬場由紀子選／馬場由紀子	25
-------------------	----

中国ウォッチング

……………編・訳 上松玲子	26
---------------	----

会員彼是

風まかせ～リヤカー放浪旅～……………中川啓造	28
------------------------	----

書籍紹介

十名直喜著『企業不祥事と日本的経営 —品質と働き方のダイナミズム』……………志村照彦	30
---	----

協会通信・会員だより・同好会だより……………	32
------------------------	----

2019年12月の行事予定……………	33
--------------------	----

善 隣 第510号 通巻777号

2019（令和元）年12月1日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5

一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03（3573）3051

FAX 03（3573）1783

発行人 矢野一彌

印刷所 （旬）ゆにおんプレス

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

みんなの写真館

……………	32
-------	----

（伊藤正博、新宅久夫）

公開講演会記録

国旗と国歌は国際理解の第一歩

NPO法人世界の国旗・国歌研究協会共同代表 吹浦忠正



小学生時代から70年

国旗との最初の出会いは、秋田の小学校4年生の時のことでした。担任の教師に「北ヨーロッパの国の国旗はなぜ、同じような十字架なんですか？」と尋ねたところ、返ってきたのは、「それも大事だが、もっと国語、算数、理科、社会を勉強なさい」。

今と違って、このまじめな少年は、先生のおっしゃるとおり、しっかり4科目を勉強したようです。すると、国旗に秘められた中身に惹かれ、いよいよ国旗が面白くなってくるのです。

大学に入学してすぐのことでした。私に、(社)日本ユネスコ協会連盟の機関紙「ユネスコ新聞」編集部から、世界の

国旗について連載しないかという嬉しい話が飛び込んできました。各国の国旗にはその国の歴史、民族、宗教、産業、理念・信条・目標、動植物、世界遺産などが集約的に納められているのはもちろんですが、互いにいろいろな関係があり、分類して覚えることは容易です。そんなことから、この連載は、自分でいうのもなんですが、結構、評判を呼び、平凡社や帝国書院で国旗の本づくりに協力させていただくことにもなりました。

そんなとき、今、NHK大河ドラマ「いだてん」で阿部サダヲが演じている田畑政治(まさじ)東京オリンピック組織委員会事務総長から、「会いたい。車をまわすから来ないか」との電話が入りました。早稲田の正門前に公用車がやってき、初め

て黒塗の車というものに乗せてもらいました。行き着いたのは、旧赤坂離宮、今の迎賓館です。小学生のころ、両親に連れられて東京見物に来たとき、外から見て、「日本の離宮なのになんで洋館なんだ」と変に少々がっかりした(今は和風の建物を併設)のを思い出しましたが、入ってみると、絢爛豪華。圧倒されるものがありました。学生服の私にはいかにも不釣り合いの雰囲気でした。正面玄関から入って、1階左に事務総長室があり、田畑事務総長(水連会長、元朝日新聞常務取締役)と松沢一鶴(事務次長、前東京都教育長)がおられました。

田畑事務総長との面接で即決

「訊くがね」。

いきなり上から目線です。

「外務省や日赤、ユネスコなどによると、キミは国旗の専門家だそうだが、イギリスの国旗へユニオン・ジャックだね、あれが付いている国旗はほかにどんな国があるのかね」「……」「わからんのかね」。

質問のばかばかしさに、生意気盛りの青年は不愉快そうに、重い口をゆっくり開けました。

「Bから始まる国だけでもバハマ、バルバドス、バーミューダ……」。

お2人を見ると、「なんだ、こいつは。

こんな国があるのか」という風情。

「それと香港、北ローデシア、ローデシア……ま、もちろん、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、南アフリカもそうですが、それがどうしましたか？ そうそう、ハワイの州旗にもユニオン・ジャックが付いてますよ」。

今度はお2人が「……？」でした。そこで田畑事務総長はガラッと態度を変える。話が早い。「判った、判った。とにかく、アジア大会での失敗を繰り返してはいけない」。

「1958年の東京大会。中華民国（台湾）の国旗を表彰式で逆さまに掲げただんでしたよね」「うん、そんなことま

で知ってるのか。この松沢くんが直接の責任者だったんだが、2人で、新橋第一ホテルに、向こうの選手団長を訪ね、土下座して詫びたんだよ」。

言葉を継いで松沢事務次長が、「自慢じゃないが、先にも後にも土下座なんぞしたことがない。どうしたらいいのかわからずに靴を履いたまま四つん這いになった。おかげで、捻挫したらしく、参ったよ」。

最後は、田畑事務総長が、「とにかく、オリンピックまであと2年半、君の役目は、正しい国旗を正しく掲げる、それに尽きるんだ。いいね」。

「はいっ！」。最後は素直に返事して、お2人と握手して立ち去りました。

田畑事務総長らの首を差し出して オリンピックを守った

その直後に、インドネシアの首都ジャカルタでアジア大会が開催されました。「北京」と親密なスカルノ大統領はIOC（国際オリンピック委員会）加盟国であり、当時は国連安保理常任理事国でもある中華民国の選手団を招聘せず、また、インドネシアが世界最大のイスラム人口を抱える国として、アラブ諸国と親密なこともあり、同じくIOCのメンバーであるイスラエルにも招聘状を送らなかったの

たのです。

当時のブランデーJIOC会長は、「インドネシアのやり方は許し難い。IOCはこの大会を認めない。参加したNOC（国内オリンピック委員会）や選手は、以後のオリンピックへの参加は認められない」。すでにジャカルタ入りしていた組織委の津島壽一（じまひさ）会長（参議院議員、元蔵相、元防衛庁長官）、田畑事務総長らは、通信事情の悪い時代に東京とやり取りし、指示を待ったが、結局は「現地判断に任せろ」ということになり、日本選手団は「ここまで来て、親日国インドネシアから引き返すわけにはいかない」と参加に踏み切ったのでした。

国際ウェイトリフティング連盟（IW F）は厳しく参加拒否を打ち出したため、この競技だけは日本選手も参加しませんでした。しかし、この決断で、日本は、2年後に迫った東京五輪を返上しなくてはならないかも、という瀬戸際に立たされたのです。そこで、組織委やJIOC（日本オリンピック委員会）は外務省などと緊密に相談し、「大人たち」がすごい決断をしたのです。「津島と田畑が勝手に参加したのだから責任を取らせる」として2人を解任し、五輪開催を守ったのです。ですから、私は、後任の与謝野秀事務

総長（鉄幹・晶子の次男）から辞令をもらいました。前職はスペイン大使、五輪後はイタリアの大使になられた方で、のちに首相になる中曽根康弘衆議院議員の秘書を経て政治家になった馨のご尊父です。

一番困ったのが「日の丸」

それはともかく、日英米仏ソなど内外の16の関係書籍や法令を基に、各国旗を製図化しました。巣鴨の旅館にスタッフと3人で5日間泊まり込んで、頑張りました。「仕様書」や「稟議書」などという言葉さえ知らない若者、もといバカ者は、その後も、自主的に、組織委で今のブラック企業並みに働きました。組織委全体がそういう雰囲気でした。

それを基に各国旗の試作品を作り、各国のNOCに航空便で送るのです。「もし、この色で不都合でしたら、添付した色見本からお選びいただきたい。それでもご満足いただけない場合は、色見本をお送りください。また、貴国の国旗に関する法令、政府が発行した国旗のガイドブックのような資料がありましたら、お送りいただければ幸いです」と、書き添えました。

なかなか返事は来ません。郵便事情もありましたが、各国NOCには自国の国

旗について公式に回答できる人がいるわけではないのですから、無理のないことです。緑・白・オレンジの縦三色旗であるアイルランドとのやり取りは8回に及び、その苦労話は、昨年からの、小学校6年生の「道徳」の教科書（日文）に、私が主人公になって4ページも掲載されています。このほど、来年からさらに4年間、掲載されることになり、この「不道德人間」は当面、泥酔も厳禁という、不自由な？生活を余儀なくされています。

閑話休題。実は、一番困ったのは、日本の国旗です。どこに相談に行ったらいいのでしょうか。まずは各国同様、JOCに持ってゆきました。が、「門前払い」。次に文部省体育局、外務省、防衛庁、内閣官房をまわりましたが、らちが明かず、国会議事堂と首相官邸で実際に掲げられている国旗を、製造したメーカーに行ってみせてもらいました。すると、赤の色合い、円の大きさ、縦横比などが意外にもバラバラなのです。そこで、（財）日本色彩研究所（色研）と資生堂研究所に相談しました。色研は、無作為に500件の家庭や企業を訪ね、そこが所有ないし使用している「日の丸」を測定し、色見本を表に出したのです。その上で、色彩の塊から外れている色票を外し、残り

の平均値を算出するということをしてくださいました。

資生堂は、当時、すでに約2000種類の口紅を試作しており、「紅」という色には精通しておられました。白については、東洋陶器（現OTO）からも助言をいただきました。「どなたでも毎日、気持ちよく使用される白はどんな白でしょうか」。その結果、白はほんの少しアイボリーの入ったものを選びましたが、後に、長野のオリンピックでは雪や氷など背景が白ですから、白度を上げて、純白を選びました。

1999年の「国旗国歌法」でも赤は「紅」と規定されましたが、この法律で廃棄されるまで有効だったのが、1870（明治3）年1月27日（旧暦）の太政官布告第57号「商船規則」。この布告でも「日の丸」の色は「紅」と決まっていたのです。JIS（日本工業規格）では「紅とは何ぞや」が数値としてbecolor: #e003fと厳密に決まっています。しかし、日本の国旗だけそうすることもできず、最終的に東京五輪では、すべての国旗の赤は同じ明度、色相、彩度の赤とし、その原反を大量に造って、切り抜き・縫製で製作することにしました。

1964年当時は、戦前、戦中、戦後

に大量の「日の丸」や「旭日旗」を作った職人たちがまだまだ健在でしたので、東京・越前堀の日本信号旗、大阪の国際信号旗の2社と、東京旗商工業組合が落札し、自衛隊やボーイスカウト、ガールスカウト、スポーツ少年団などの大変なご苦労も積み重なって、結果的に、「正しい国旗を正しく掲げる」ことができました。しかし、残念なことにこの3メーカーは、今は存在していません。

来年の東京五輪では、去る4月22日に国際入札した結果、アテナという日本のメーカーが208か国（地域、206のIOC加盟NOCとパラリンピックにだけ参加する澳門とフェロー諸島）の約1万3000枚の国旗の製作を落札しました。老生も入札の審査員をしましたが、このペースで大会に間に合うのかと日々、本気で心配し、隔週くらいこのペースで開かれる、組織委とアテナの「連絡会」に参加して指導しています。

耐用実験で旗布を決定

そうそう、旗布のことを忘れていました。今まで日本で開催された3回の五輪大会はエクスランという東洋紡が開発した化学繊維でした。1956年のメルボルン、2000年のシドニーなどでは

「羊の国」オーストラリアらしく羊毛^{ウール}の旗布でしたし、1984年のロサンゼルス、1996年のアトランタ大会はナイロンでした。

1964年の東京大会ではこの3種類を、バンティングという旗布に織ったスベイン、メキシコ、グアテマラという紋章付きの国旗を試作して、国立競技場に15日間、掲揚して耐用実験をしました。その結果、ナイロンは9日目の雨で「染めが泣く」といって色が流れ、11日目にはウール地の「流れ」（裾）が破れました。かくして、風合い、強度、染色、費用、在庫などを総合的に判断し、エクスランを採用しました。しかし、それまでには、東京五輪開会式で選手宣誓をした体操の小野喬、「フジヤマのトビウオ」と称えられた古橋廣之進の超有名アスリートであるお2人が、東レと大同毛織の営業マンとして、私のところに頼み込みに来るといった場面もありました。小野さんは郷里の大先輩であり、秋田弁を交えての売込みには閉口しました。他方、生来、泳げない私にとって古橋さんは「憧れの人」でした。今にしてみれば、サインでももらっておくんでしたね（笑）。

いよいよ明日が開会式

1964年10月10日、「世界中の青空を集めたような快晴」と、NHKの北出清五郎アナが実況中継したように、当日は、雲一つない素晴らしい天気でしたが、前日は夕方から大変な豪雨でした。「明日の開会式は消えた」「オジャンだ、オジャンだ」と落語の「火焰太鼓」のような話をしながら、組織委の若者たちが誘い合い、四谷で飲み、新宿で食事し、最後は、高田馬場で飲みなおしました。

午前2時過ぎだったでしょうか、外に出たら、月はなかったですが満天の星！今でも酔眼で見たあの星が頭に焼き付いています。そこからどうやって、午前6時の集合時間までに国立競技場に着的いたかは思い出せないのです。制服を着用して集合したので、たぶん組織委の会議室あたりで少しは寝たのかもしれない。

驚いたのは、田畑前事務総長がスタジアムの貴賓席に一人、ポツンと座っておられたこと。東京にオリンピックを招致した最高のリーダーでありながら、この日のために事務総長としてのクビを差し出した人の感懷や如何？ その姿に酔いも覚めました。

開会式での行進はギリシャが先頭。以下、アフガニスタン、アルバニア、アルゼンチン……という具合に英語のアルファ

ベット順で、最後は開催国・日本。これで計94か国でした。

インドネシアの選手団は、羽田空港で待機したのですが、IOCが参加を認めずそのまま帰国、北朝鮮の選手団は、九段の朝鮮総連で待機したのですが、同じく全員、新潟に戻り、万景峰号で帰国。女子800メートルで世界記録を持つ辛金丹選手は先に「脱北」していた父親と総連で15分間話をするという再会ドラマもあったのです。

開会式での私の役割は、競技場裏正面に並ぶ参加国旗がきちんと掲揚されているかを確認することや、各国の旗手がそろっているか、奉持に際して上下を付け間違えたりしていないか、といったチェックでした。幸い、自衛隊練馬師団のみなさんが、実に、完璧に準備してくれました。それでも因果なもので、あれから55年も経った今でも、当時のビデオや映画が放映されると、大丈夫かとハラハラしてしまうのは、習性か、お許しください。間違いは、大会終了後、私が任を解かれ、優勝者の名を刻んだ銘板がスタジアムに掲示されたとき、インドの国旗が逆掲揚されたのを報告書で見ただけでした。

国旗が逆というのは、2016年のリオデジャネイロ五輪でも、ロシアやチェコ

の国旗が競技場前の掲揚塔で逆さまになっていたのを、私自身がリオで見つけました。それよりも、室内競技での表彰式で、中国の国旗のデザインが違っていたのには驚きました。紅地のカントン（左上部）に共産党を表す大きな黄色い星を置き、その右に、労働者、農民、知識人、愛国的資本家を表すと説明されている、4つの小さな同じ色の星、これが中国の国旗「五星紅旗」なのです。しかし、本来は、4つの星の一端が大きな星に向いていないといけないのに、全部、上のほうを向いている、すなわち、人民が共産党から遊離しているようなデザインになっていたのです。

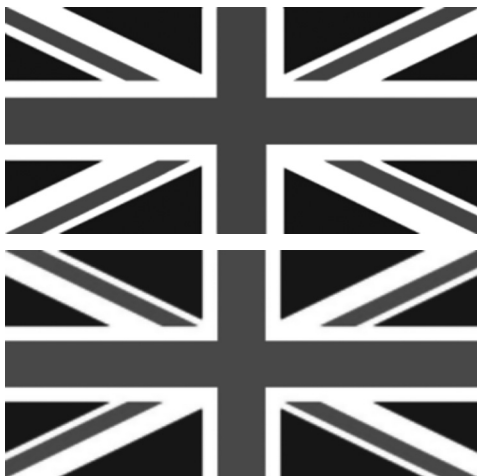
中国の総領事はおそらくは「怒发冲天（怒髪天を衝く）」形相だったのでしょうか、リオ五輪の組織委に怒鳴り込んできました。後でその旗を見せてもらったところ、「中国製」と書いたラベルが付いていました（笑）。それにしても国旗は検品が大事です。「東京2020」に際しては1万3000流の国旗をこの目で点検するつもりです。中国で思い出すのは、アジアで初めてという、前の東京五輪の7日目、かの国が初の核実験を行ったことです。このときは組織委のスタッフ全員が、怒り心頭でした。爾来、私は「日中友好」という言葉に容易には浮かれることができません。

なっていました。同時に、ソ連空軍機が頻繁に日本に接近し、空自がその都度、スクランブルをかけたのでした。

先進諸国の国旗のいわれ

戦前の教科書では、主要国の国旗とそのいわれやよって来る由縁をきちんと指導していました。きょう、ここでも少し解説したいと思います。

国旗でしばしば混乱するのは英国旗（ユニオン・ジャック）です。これに上下があるということがなかなか理解していただかず、都内でもたびたび、逆掲揚をしているのを見かけます。さて、この2つ、どちらが正しい英国旗でしょう？



（正解は本稿末尾に）

英国はイングランド、スコットランド、アイルランドが合併してできた国ですが、その都度、国旗も合体したのです。それによって、青地に白の斜め十字のスコットランドの旗が、アイルランドの白地に赤の斜め十字の旗に隠れないように、赤の斜め十字を左回りに回転させたのです。

フランスの国旗は周知のデザインですが、青・白・赤の縦三色旗の色が3等分かとなると結構、ややこしいのです。今では、陸上では3等分、商船や軍艦が海上で使用する場合には、30:33:37になっています。「そのほうが海では3等分に見える」というのです。いかにも美の国フランスの面目躍如といったところでしょうか？

ドイツの国旗は、1871年の統一（第2帝政）で黒・白・赤の横三色旗になりましたが、第1次世界大戦で敗れ、「ワイマール共和国」時代は今と同じ、黒・赤・金の横三色旗となり、ナチス政権で「鍵十字旗」となり、第2次世界大戦で敗れると、西ドイツはワイマール時代の国旗に戻ったのですが、東ドイツは、ややあって、それに労働者を表すハンマー、農民を表す麦の穂、知識階級を表す分割器を配した紋章を付け、1989年の再統一で、全土が黒・赤・金の三色旗になりました。先進国でもっとも国旗が変わった

国はドイツです。

緑・白・赤の縦三色旗であるイタリアの国旗は、日本中で、おそらく「日の丸」を凌ぐほどの数が見られるのではないでしょうか？ これは、先の大戦でイタリアが43年に連合軍に降伏した際、神戸港に親善訪問をしていたイタリアの2隻の軍艦が「キングストン弁」を抜いて自沈し、全員が捕虜になったことに由来するのです。将校や水兵の中には、シベリア鉄道で中立国ソ連を経て帰国した者もいましたが、多くは、連合艦隊に要員として乗り組んだのでした。そのとき、2人のシェフが宝塚と神戸で、イタリアの国旗を掲げてレストランを開業したのが始まりで、南青山のイタリアレストラン「アントニオ」の先々代がその人です。

オランダの国旗は赤・白・青の横三色旗。16世紀後半からは世界に翻った国旗でした。ナポレオンに支配された時期には、アフリカのある砦を除き、長崎の出島にだけは掲揚され続けていました。17世紀末、250人を率いてオランダを訪問したロシアのピョートル大帝はオランダがこの旗の下、世界に進出していることに感銘し、自国でもこの旗をと、色の順番を白・青・赤にした横三色旗を採用したのです。

ペリー来航ショックで国旗を決めたが

アメリカは国旗も国歌も「星条旗」。1783年のきょう（7月4日）に独立したときの州の数が紅白13本の縞で表され、時の州の数だけ星がカントンに並べられているのです。

ですから、1853年、ペリー提督が浦賀にやってきたときは、その直前にカリフォルニアが州に昇格し、31星の「星条旗」を掲げてきました。これに対応して警備に当たった会津、川越、忍、彦根の各藩は自藩の家紋の付いた幟を掲げ、国旗を掲げませんでした。より正確に言うなら、日本には国旗としてきちんと決められたものがなかったのです。当時は、幕府の御用米を運搬する船の旗印が、1〜5個の「日の丸」を幟に仕立てていました。いよいよ開国となって、老中筆頭の阿部正弘が中心になり、「わが国でも惣船印が必要だ」ということから、「徳川の先祖にあたる新田家」の家紋に由来する「大中黒」（白・黒・白の横3分割旗）を幕閣が決定しました。

ところが、「これでは日本中が喪中になる」といったかどうかはわかりませんが、薩摩の島津斉彬と水戸の徳川斉昭が異を唱え、幕閣が再度検討して、「日の丸」

を採択したのでした。ですから、箱館戦争では榎本武揚ら旧幕府軍が「日の丸」を、明治新政府軍が「旭日旗」を用いていました。

その終戦から10か月余りを経た1870年2月27日（太陽暦）、太政官布告で商船用の国旗として「日の丸」が定められ、明治政府が旧幕府を継承する正当なものであるということを示す役割を果たしたのです。もっとも、その布告では「縦横比7：10、円の大きさは縦の5分の3」まではすんなり理解できるのですが、「円の中心は横の100分の1、旗竿側に寄る」という内容なのです。これにはおそらく、フランス人のお雇い外国人（モンブラン伯？）の助言があったのではないかと、私は推測します。当時、ナポレオン3世による「第2帝政」時代であったフランスでは、国旗の3色が前述のように不等分とするのが普通だったのですから。

今の「君が代」は2代目

国歌「君が代」にはもっと色濃く、外国人の影響がみられます。1869年、英国のヴィクトリア女王の第2王子アルフレッド公が、日本を迎える最初の貴賓としてやってきました。このとき、英国軍楽隊長であったウィリアム・フェント

ンが作曲したのが初代の「君が代」です。歌詞は、大山弥助（後の大山巖元帥）が薩摩で知られていた、『古今和歌集』に由来するものを援用しました。国歌となっている中では、世界最古の歌詞（短歌）なのです。



新藤昌子さんに歌ってもらいましょう。
〈新藤が披露〉。

このように全く西洋音階の曲で、日本には「ドレミ」の音階が普及する以前でしたので、この曲は決して愛唱されることはありませんでした。そこで、1880年になって、宮内庁楽部の若き伶人・奥好義（後の「婦人従軍歌」の作曲者）がフェントンの曲を頭に置きながら、同じ音域、酷似したリズムの邦楽調の、現在の曲を作り、上司の林廣守の監修を経て、現在の「君が代」になったのです。フランス、中国、アメリカのような戦争に由来する歌詞の国歌ではなく、日本

国と日本国民統合の象徴である天皇が永遠たれ、すなわち、日本国が永遠であることを祈念するすばらしい詩であり、曲ではないかと思料します。

国際社会においては、トランプ大統領ではないですが、「アメリカ・ファースト」、互いに利益追求が第一であるのが現実です。グローバル化が進んでいるとはいえ、世界は基本的に1648年のウェストファリア条約以来の主権国家から成り立っていることに変わりありません。ですから、トランプ大統領はメキシコとの間に「壁」を構築しようとし、英国のメイ首相はBrexitの結論をどうまとめるかで苦心し、ついに辞任となったのです。

そうした中で、法や正義さえ、しばしば蔑ろにされるのは遺憾とするところですが、理想と現実の乖離は何事にあっても完全に解決はできないのではないのでしょうか。

国旗や国歌は、最初に申し上げた通り、その国の基本を詰め込んだものと理解し、それを知り、学ぶことは、その国を知る第一歩だと確信します。それによって、お互いに互恵の気持ちを持ち合わせることで、平和の基本であると私は考えます。残念なことですが、日韓両国は昨今、厳しい関係になってきています。日本が

らの修学旅行生や観光客の数は激減しています。部品の輸出を止めるという事態にもなっています。しかし、お互いに「引越できない関係」にあるのですから、落ちついた交流や協力し合う関係に戻りたいものだと思います。

そうした中で昨年の平昌冬季オリンピックにおける、小平奈緒と李相花の名勝負、そして試合後の寄り添う姿は素晴らしいものでした。五輪で連勝している李、その前の組で走った小平は36秒94の五輪新。そのとき、騒然とする場内の観客に向かって、小平は口元に指を押し立てて、次に出場する李たちのために静かにしてほしいと願いを込めたのです。結果はわずかに0秒39の違いで小平が「金」。

これまでの健闘を讃える李相花コールが続く中、「太極旗」を持った李は、場内をゆっくり一周。それを迎えた小平は文字通り「日の丸」を背負って、李の健闘を讃えてハグしました。ぎくしゃくしていた日韓関係が霞むような、2人の友情物語に私は大いに涙したのです。

国旗はときに国威発場の道具にもなりまします。しかし、他を排除しない、啓発されたナショナリズム(enlightened nationalism)はエネルギーの根源になるのではないでしょう。か。「ニッポン、チャチャチャ」の観衆

の嬉しそうな姿に、こっちも笑顔になるのは自然なことだと思います。

オリンピックはしばしば政治の影響を受けて来ました。平昌五輪では、南北が急遽合同チームで参加し、入場行進では白地に朝鮮半島と済州島だけを描いたIOC公認の旗を使いました。しかし、観客席では、韓国の人も、北朝鮮からの「美女軍団」も鬱陵島や竹島(韓国では「独島」)をも描いた旗を振って応援していました。

「東京2020」は私にとっての国旗を担当する4度目のオリンピックですが、これを機に、日本で国旗や国歌を通じて、国際理解や友好が進み、互いに尊敬したい、平和な社会へとつながるきっかけになればと願うばかりです。

(英国旗は上側が正しい)。

〈注〉講演では、オペラ歌手で約100か国の国歌をその国の言葉で歌えるという新藤昌子さんが、講演中に9か国の国歌を原語で披露してくれました。

(2019年7月4日・公開フォーラム)

筆者略歴(ふきうら ただまさ)

1941年、秋田市生まれ。早稲田大学政経学部在学中にオリンピック東京

大会組織委員会専門職員として国旗を担当。埼玉県立大学教授。札幌、長野の冬季五輪でも国旗に関わる。

著書は『国旗で読む世界史』『国旗で読む世界地図』『オリンピック101の謎』『オリンピックでよく見る、よく聴く国旗と国歌』など多数。「世界一受けた授業」「NHKスペシャル」など出演多数。NHK大河ドラマ「いだてん」で国旗考証を担当中。新藤昌子とともに全国各地の小中学校などで、国旗・国歌の出前授業を実施中。

新藤昌子(しんどう まさこ)

NPO法人世界の国旗・国歌研究協会共同代表。ソプラノ・リリコレッジェーロ。桐朋学園大学声楽科卒業、同研究科修了。多くのオペラに出演。2008年より国歌による国際友好親善活動を開始。東京都人権週間講師として「音楽と人権」をテーマに演奏と講演を行う。17年12月にはリサイタルを開催。地元、調布市で「国歌合唱団」を指導し、演奏。20年3月1日に紀尾井ホールで「世界の国旗・国歌コンサート」を開催予定。

公開講演会記録

生麦事件から明治維新へ

結び文化研究所 所長 小暮幹雄



皆さんが中学校や高校の日本史の授業で学んだと思います、いわゆる生麦事件が発端で明治維新へ突き進んでいったところまでのいきさつを、映像を使ってお話しいたします。初めに生麦事件が起きるまでの歴史を1600年の関ヶ原の合戦までさかのぼり、それからの主な出来事を観ていきます。

関ヶ原の合戦後

関ヶ原の合戦は、東軍の総大将は徳川家康で、西軍の総大将は毛利輝元です。

戦火の結果は徳川家康率いる東軍が勝利し、その後、家康は天下を統一し江戸に幕府を開きました。戦に負けた西軍の長州藩の藩主毛利輝元は、安芸、備後、周防、長門、出雲、岩見、隠岐の7か国を

支配し、112万石を誇っていました。が、関ヶ原合戦での敗北後は、周防、長門の2か国の36万9千石に減らされてしまいました。その無念さがすべての藩士の心底にあり、そのことが幕末まで続いています。エピソードとして、毎年新年賀の儀で家臣代表が「今年は徳川を打ちましようか?」という、殿様は「いや、今年は見合わせておこう」というのが恒例で、幕末まで続いたそうです。

ペリー来航

1853年(嘉永6年)6月3日夕刻、マシュー・ペリー提督が4隻の船を率いて神奈川浦賀沖に来航し、徳川幕府に対して開港を要求しました。当時のアメリカは灯りの燃料として鯨油を使用し

ていましたので、太平洋でクジラを捕っていた捕鯨船への水や薪、食料などを調達するための港の必要を日本に求めてきたのです。幕府はすぐには開港の要求を受け入れず、回答を保留すると、ペリーは翌年に再び来るとのことです。

日米和親条約締結

1854年(嘉永7年)1月16日、再び、ペリー提督は艦隊を率いて来日しました。幕府は開港要求をやむなく受け入れて、日米和親条約を結びました。1858年(安政5年)6月には、幕府は日米修好通商条約を朝廷の勅許を得ずに締結しました。この時、反対していた吉田松陰、横井小南などの尊王攘夷派の多くは、

大老井伊直弼によるいわゆる「安政の大獄」で捕らわれて、斬首されました。1860年（万延元年）3月3日、大老井伊直弼は桜田門外で水戸脱藩浪士などによって襲撃され首をはねられました。

島津久光一行江戸へ

1862年（文久2年）4月、薩摩藩の島津久光は兵1千名を率いて上洛し、幕府へ勅使を派遣し、幕政改革を進言することを朝廷に提言しました。朝廷は勅使に大原重徳（おおはらしげとみ）を任命し、翌5月には島津久光が兵400名と共に勅使を護衛して江戸へ下向しました。江戸に着いた勅使大原重徳は幕府に對して、一橋慶喜を將軍後見職に、松平慶永（春嶽）を政治総裁職にすることを要求し、受け入れさせました。同年8月、島津久光一行は江戸三田の薩摩藩邸を発って、川崎で昼食を摂った後2時過ぎに神奈川の生麦村に差し掛かりました。そこで起きたのが生麦事件です。

生麦事件発生

当時の生麦村は東海道の道筋で、両側には185軒の家があり、その8割方は漁師で民家の裏側は畑でした。島津久光一行は川崎方向から横浜方向へと行列を

進めていました。そこへ、英国人女性を1人含む4名が乗馬で横浜方向から久光の行列方向へ進んできました。大名行列が来たら馬から降りて脇によるのが常識でしたが、4名は馬に乗ったまま行列へと進めてしまいました。

英国人4名は、チャールズ・レノックス・リチャードソン（上海で貿易商をしており、マーシャルの友人）、ウィリアム・マーシャル（横浜で生糸の輸出商）、マーガレット・ボロデイル（マーシャルの義理の妹）、ウヅジロップ・チャールズ・クラーク（ハード商会の生糸検査員でマーシャルのビリヤード仲間）です。

進行方向左側にマーガレット、右側にリチャードソン、マーガレットの10メートルほど後ろにクラーク、リチャードソンの後ろにマーシャルという隊形で進み、行列とすれ違う形になり、鉄砲組を難なく過ぎ、リチャードソンの馬が一行の列を避けて左に寄ると、マーガレットの馬に接触して道路側の溝に馬の脚が入ってしまい馬を戻そうとして、行列の中に入ってしまった。

島津久光の駕籠の右後方に従っていた供頭の奈良原喜左衛門がこの様子を見咎めると、駆け込んで引き返せと合図しましたが、リチャードソンは理解でき

ず、後方にいたクラークは危険を感じて引き返せと叫びました。リチャードソンとマーガレットは馬を引き返そうとしたが、思うようにはいかず、2頭の馬はさらに行列に深く入り込み、行列は進行不能となってしまいました。奈良原喜左衛門はリチャードソンに「無礼者！」といって袈裟懸けで切りつけました。当時19歳の久木村治休（利休）も切りつけました。リチャードソンは馬を700メートルほど横浜方向へ走らせましたが、すぐに落馬してしまいました。そこで、もう助からないとみた当日非番供頭の海江田武次が畑の中に引き入れて「許せよ、今に樂にしてやるから」と喉を一突きし、止めを刺しました。

他の3名は手傷を負ったものの命には別条なくアメリカ領事館のある本覚寺に逃げ込みました。アメリカ領事館では、近くの宗興寺で医療活動をしていたアメリカ人のヘボン医師（1815～1911年）を呼びよせて3名の治療に当たらせました。

ヘボン医師

ヘボン医師は、1815年ペンシルベニア生まれの宣教師で1859年（安政6年）にクララ夫人と共に来日し、神

奈川宿の成仏寺に住まい、宗興寺を施療所として医療活動が無償で行っていました。ヘボン医師は正式にはジェームス・カーティス・ヘップバーンといいますが、呼びやすくヘボンと言われており、漢字表記では「平文」とされています。ヘボンは信仰するキリスト教を日本に広めるためには日本語を勉強する必要を感じていました。そこで、ヘボンは日本語を英語でどのようにいうかを小まめにメモに取り、7年かけて日本初の和英辞書『和英語林集成』を編纂しました。

この編纂には岸田吟香が支援していました。岸田吟香の息子が画家の岸田劉生です。ちなみにこの『和英語林集成』を幕府は300冊購入したそうです。当時の日本にはローマ字の活字がありませんでしたので、印刷は上海で行いました。

ヘボン塾の塾生

ヘボンはまた、クララ夫人と共に横浜で英語を教える「ヘボン塾」を創設しています。第1期生には林董（はやしただす）がおりました。林董は順天堂の創始者の佐藤泰然の5男で、若くして林洞海（はやしどうかい）の養子となりました。親戚筋の榎本武揚と共に箱館戦争で戦いましたが、榎本と共に降伏しました。しばらくして明治政

府に請われて、明治4年には岩倉使節団の通訳として同行し米欧を視察してきました。後には、英国公使として日英同盟を工作し、帰国後は外務大臣にまで上り詰め伯爵の爵位を賜りました。また、ヘボン塾生には内閣総理大臣を務めた高橋是清や三井物産や後の日本経済新聞の創設者の益田孝がおります。私事で恐縮ですが、母校の明治学院はヘボン塾がルーツで、今年で156周年です。

江戸幕府へ報告

島津久光一行は、神奈川宿で休息を取る予定を返上し、足早に保土ヶ谷へと向かいました。幕府へ報告するために、山口金之丞を三田藩邸へ差し向けました。三田藩邸で報告を受けた留守居役の西筑右衛門は、翌日書状をもって「リチャードソンほかに危害を加えたのは、足輕の岡野新助という人物であって、馬で逃げた3人を追って、その後、行方不明である」と幕府に報告しました。岡野新助という人物は全くの架空の人物です。

生麦事件賠償金

事件から5か月後、代理公使ジョン・ニールの事件に関する報告書に基づき、ラッセル外務大臣より、幕府に対して賠

償金が要求されました。この時、第14代将軍家茂は上洛中で江戸を留守にしていたため、老中格の小笠原圖書頭長行は、独断で10万ポンドの支払いを1863年（文久3年）5月9日に完了し、英国との戦争になるのを回避しました。

英国側は薩摩藩に犯人の処刑と遺族への賠償金2万5千ポンドを3月8日まで収めよという要求をしました。薩摩藩はあくまでも犯人は行方不明であると押し通し、賠償金の支払いには応じませんでした。そこで、英国は、艦船7隻を鹿児島湾へ差し向けて鹿児島市内を砲撃しました。これがいわゆる「薩英戦争」です。英国艦隊は油断して岸边に近づき、薩摩藩砲台の射程距離内に入った旗艦ユーリアラス号は激しく被弾し、艦長ジョスリング大佐と副艦長ウィルモット中佐が戦死しました。英艦のアームストロング砲やロケット弾により、薩摩藩の諸砲台は破壊され、鹿児島市街に大火が発生しました。英国外務省の発表によれば、英国は死者11名、負傷者39名。『薩藩海軍史』によれば、薩摩藩は死者5名、負傷者13名とのことです。薩摩藩は賠償金2万5千ポンドを幕府から250年間で返済するとして借用し、英国側へ支払い講和しました。

下関戦争勃発

長州藩は、1863年（文久3年）、攘夷実行という大義のもと、馬関海峡（現関門海峡）を封鎖し、航行中の米仏商船に対して砲撃を加えたため、1864年（元治元年）、英国、仏国、蘭国、米国の4か国連合艦隊は長州藩の砲台を攻撃し、高杉晋作率いる奇兵隊などと銃撃戦を繰り広げ、約2千名の兵士を上陸させ、砲台を占拠しました。この「下関戦争」で長州藩も外国の威力の凄まじさを身をもって体験しました。

薩長同盟締結

薩摩藩は近代化を進めて軍備を整えてきましたが、この薩英戦争や下関戦争で欧米列強との軍事力には格段の差があることを実感させられました。薩摩藩は、国家を統一しなければ、欧米列強には対抗できないとし、尊王討幕思想を一層強固にし、長州などと手を組んで討幕へと進んでいきました。1866年（慶応2年）、薩摩藩と長州藩が坂本龍馬の仲介により、いわゆる「薩長同盟」を結び、明治維新へと大革命を5年で成し遂げ、今日に至りました。

日英同盟締結

薩英戦争で薩摩藩の天祐丸と青鷹丸が英国側に拿捕された際に、捕虜となった松木弘安（後の寺島宗則）と五代友厚は、英艦隊が横浜に着くと釈放されました。五代友厚は、英国と薩摩の国力の差は計り知れないと感じ、英国に学ぶために留学生を派遣すべきとの「注進書」を藩庁へ提出しました。英国も薩摩藩へ好意を示し、幕府の禁令を犯して薩摩藩の使節と留学生の受け入れを認めました。

薩摩藩は1865年（慶応元年）4月に長崎にいたトーマス・グラバーが用意した蒸気船オースタライエン号で、新納久脩（にいろひさのぶ）、松木弘安、五代友厚と通訳4名の使節と15名の留学生を英国へ派遣しました。帰国後、五代友厚は大阪商工会議所を創設して初代会頭となり、松木弘安は外務卿（外務大臣）となりました。薩摩藩からの使節や留学生たちは、明治政府の外交、軍事、経済などの分野で活躍し、日英関係を緊密化し、日本海軍を英国海軍式に育て、日英同盟を締結するまでに日英両国を結び付けました。

1865年（慶応元年）、長州藩には、正義派政権が誕生し、武装恭順を唱えて

抗戦の姿勢を見せたため、第14代將軍徳川家茂は同年5月に大阪城に入りました。そして、9月には長州再征の勅許を得ました。この時、京にいた薩摩藩士の大久保利通らは、長州再征は諸侯会議を開催したうえで決めるべきとしましたが、朝廷を擁した一橋慶喜に阻まれました。そのため、大久保利通は長州再征の勅許を「非議の勅命は勅命に在らず」と憤慨し、以後、薩摩藩は長州藩との提携を加速させていきました。

第2次長州征討

1866年（慶応2年）、幕府は長州藩の10万石の削封と藩主毛利敬親の隠居などの処分を決定し、長州藩に到達しました。そして、紀伊藩主徳川茂承を先鋒総督に任じて西国32藩に出兵を命じましたが、この時すでに、薩長同盟が成立しており、薩摩藩は幕府に対して出兵拒否を申し入れました。幕府が長州藩に提示した回答期限を過ぎても長州藩からは回答がなかったために幕府軍は総勢15万の軍で四方から総攻撃を開始しました。対する長州藩の兵力は、高杉晋作率いる奇兵隊ら長州諸隊を中心に数千人でありましたが、最新の洋式兵器を備えており、大村益次郎らの軍制改革で精鋭に育って

いました。一方、幕府の命で参戦した諸藩の多くは、第2次長州征討は、幕府と長州の私闘とみていたため、士気が上がりませんでした。そのため、幕府軍は各地で長州藩に敗北を重ねていきました。

連戦連敗の続く中、大阪城にいた将軍家茂が病死してしまいました。将軍家茂には子がいませんでしたので、一橋慶喜は、1866年（慶応2年）8月に徳川宗家を継ぐことになりましたが、しばらくの間は將軍職に就くことを辞退していました。これは、長州に大敗した直後の幕府を背負うことは得策ではないと判断したからであると思われます。しかし、同年12月5日に慶喜は第15代将軍に就任しました。

大政奉還を奏上

1867年（慶応3年）には討幕勢力が台頭しつつあり、前土佐藩主の山之内豊信（容堂）は、幕府による独裁には反対しつつも、討幕派と幕府の武力衝突を回避する案を模索していました。後藤象二郎は海援隊隊長の坂本龍馬と長崎から京都へ向かう船中で、坂本龍馬から大政奉還論などの「船中八策」を示されました。後藤象二郎は「船中八策」をもとにした大政奉還論を藩主豊信を通して徳川

慶喜に建白しました。将軍慶喜は、大政奉還論を受け入れました。

将軍慶喜は、条約勅許と兵庫開港勅許を得て通商条約の欠陥を補完した後、大政奉還を断行しました。1867年（慶応3年）10月12日、老中以下、在京の幕府諸役人が二条城に集い、慶喜から大政奉還の決意が告げられました。翌13日には、在京諸藩の10万石以上の大名を招集して、京都所司代桑名藩主松平定敬が「大政奉還上表文章稿」を示して説明しました。翌14日には、将軍慶喜の命令で高家の大沢右京大夫基寿が参内し、「大政奉還上表文」を提出しました。

坂本龍馬、中岡慎太郎暗殺さる

土佐藩を脱藩した坂本龍馬は、大政奉還後の約1か月後、中岡慎太郎と共に京都近江屋で惨殺されました。高杉晋作から譲られたピストルを使う間もないほど、突然の襲撃でした。龍馬襲撃の犯人は京都見廻り組であるという説が有力ですが、新撰組説や薩摩藩など意外な勢力が黒幕であるという説もあり、日本史上最大の謎の1つに挙げられています。

王政復古の号令

大政奉還によって、徳川慶喜は見事に

討幕派の機先を制することに成功しました。薩摩、長州、芸州による討幕挙兵は中止され、さらに朝廷からは当面の政権を委任されることになりました。朝廷側には政権を運営する力はなく、大政奉還後には再び政権を任されるであろうという慶喜の読みが的中しました。岩倉具視は王政復古論をもとにした宮中クーデターとして、慶喜の裏をかくて王政復古を宣言し、朝廷を中心とした新政権を樹立する計画を立てました。

1867年12月9日、西郷隆盛が指揮する薩摩藩兵が中心となり、越前、芸州、尾張、土佐の藩兵が御所に通じる9つの門を閉鎖しました。岩倉具視は明治天皇の勅許を得て王政復古を宣言しました。ここに、天皇を中心とした新政府が誕生し、260年以上続いた江戸幕府は終わりを告げました。

鳥羽伏見の戦い

王政復古のクーデター直後に開かれた小御所会議で失脚した徳川慶喜は、大阪城へと退きました。しかし、前土佐藩主の山之内豊信（容堂）ら公議政体派が慶喜の擁護に転じると、慶喜は議定就任が内定するまで復権しました。これに危機感を抱いた薩長両藩は、武力を行使し、

西郷隆盛が送り込んだ薩摩藩士益満休之助らに命じて、江戸の街で強盗や放火、辻斬りや略奪などを繰り返し、慶喜を挑発しました。江戸の街の治安を受け持っていた庄内藩が三田の薩摩藩邸を砲撃しました。1868年（慶応4年）1月1日、慶喜は薩摩藩を討伐する「討薩の表」を発し、新政府軍との武力抗戦を決意しました。

会津藩、桑名藩を中心とした総勢1万5千もの旧幕府軍は、京都に向けて進軍。迎え撃つ新政府軍は、薩長両藩を主体とする約5千人が出兵。鳥羽・伏見で激しい戦闘を展開しました。征討大將軍に任命された仁和寺宮嘉彰親王が、朝敵を征伐する際の官軍の旗印である錦の御旗（錦旗）をひるがえすと、状況は一変し、新政府軍には土佐藩が加勢し、津藩も旧幕府軍から寝返るなど、新政府軍が一気に攻勢に転じると、形勢不利と見た慶喜は、ひそかに大阪城から江戸へ船で逃亡しました。これを知った旧幕府軍は瓦解し、戦闘は終結しました。

江戸無血開城

鳥羽・伏見の戦いで旧幕府軍を破った新政府は、江戸に逃亡した徳川慶喜に対して追討令を発布しました。有栖川宮熾

仁親王を大総督、西郷隆盛を参謀とする東征軍を結成し、1868年（慶応4年）3月15日を江戸総攻撃の日と定めました。しかし、抗戦を断念した慶喜は、すでに上野寛永寺で謹慎しており、後事を託された勝海舟が、江戸における戦闘回避と、徳川家存続に向けて奔走していました。3月9日、勝は西郷のもとに旧幕臣の山岡鉄舟を遣わし、会談を申し込みました。西郷は会談を受け入れ、3月13日、江戸の薩摩藩邸にて勝と西郷の会談が実現しました。2日間にわたり話し合いが行われ、旧幕府側の武装解除や江戸城の明け渡しを条件に、徳川家は存続することができるようになりました。慶喜の水戸での謹慎も決まり、新政府軍による江戸の総攻撃は中止となりました。総攻撃が回避された背景には、江戸の街が戦火に包まれることで、日本との貿易に支障が出ることを危惧したイギリス公使のパークスが、新政府に圧力をかけたともいわれています。また、勝が西郷を説得して、無血開城が実現した背景には、大奥の活躍があり、薩摩藩主の養女であった天璋院（篤姫）と、孝明天皇の皇女であった和宮は、徳川家を守るために、それぞれ自殺を図ることをほめかしてまで薩摩藩と朝廷を説得したことも

あり、無血開城が実現したわけです。

上野戦争

1868年（慶応4年）4月、江戸の無血開城が決まったものの、旧幕臣の中には、新政府軍との抗戦を唱える主戦論者も少なくなく、徳川慶喜の復権などを目指して結成された彰義隊は、旧幕府首脳から江戸市中取締に任命されると、慶喜が謹慎している上野寛永寺を拠点に、江戸の治安維持に奔走しました。慶喜が水戸へ移った後も上野に残ると、新政府に不満を持つ旧幕臣や諸藩の志士らを吸収して、総勢3千人を超える組織へと発展しました。慶喜と共に江戸からの退去を訴えた頭取渋沢成一郎が脱退し、主戦論者の副頭取、天野八郎が隊の実権を握ると、新政府も彰義隊に対する警戒を強めました。新政府の東征軍参謀の西郷隆盛は、彰義隊に対して何度も武装解除を要求するも、逆に彰義隊と新政府軍の兵士により小競り合いが頻発しました。この状況を見た新政府は、指揮官として大村益次郎を上野に派遣し、寛永寺を包囲して総攻撃を決定しました。佐賀藩が製造したアームストロング砲を投入するなど、新政府軍の圧倒的な兵力の前に、彰義隊はわずか1日で壊滅しました。ちな

みに、大村益次郎（旧姓村田蔵六）は横浜のヘボン塾で英語を習いました。

奥羽越列藩同盟成立

鳥羽伏見の戦いの後、新政府は徳川慶喜追討と並行して全国平定を開始し、九条通孝を奥羽鎮撫総督に、長州の世良修蔵らを参謀に任じて仙台に派遣し、東北諸藩に佐幕派の雄藩である会津藩、庄内藩の征伐を命じました。会津藩や庄内藩に何の恨みもなく、また、成立したばかりの新政府の命令に従うべきか決めかねた東北諸藩は、仙台藩を中心に会津、庄内救済の嘆願書を提出し、平和裏に事を解決しようとした。ところが、会津征伐を譲らない世良修蔵がこの嘆願書の受け取りを拒否すると、東北諸藩は新政府との対決姿勢を強めることとなり、ついには仙台藩士らによる世良殺害事件に発展しました。

奥羽鎮撫の参謀の世良を殺したことから、東北諸藩と新政府との対立は決定的となりました。1868年5月には仙台藩を中心とした東北25藩が奥羽列藩同盟を結成し、すぐに長岡藩など越後6藩も加盟し、奥羽越列藩同盟となりました。各藩の思惑は必ずしも一致せず、そのため、東北諸藩へ戦火が及び、戦局

が新政府軍に優勢に傾くと、降伏して同盟から離脱する藩が相次ぎました。

会津戦争

新政府によって朝敵の汚名をきせられた会津藩主松平容保は、鳥羽伏見の戦いで徳川慶喜と共に江戸へ敗走したのち会津へ帰り、庄内藩と同盟を結びました。上野戦争が一段落した1868年5月以降、新政府軍の東北進攻は本格化しました。会津藩は圧倒的な兵力差をもとめせず、各地で善戦しました。しかし、7月に奥羽越列藩同盟の1つである二本松藩が新政府軍によって攻め落とされると、板垣退助らの率いる新政府軍の主力は会津藩の拠点である鶴ヶ城を目指しました。8月末には鶴ヶ城が包囲され、会津藩士や家族らは壮絶な籠城戦に突入しました。新政府軍の火力の前に多くの犠牲者を出し、弾薬も食料も尽きた会津藩は、約1か月後の9月22日に降伏し、会津戦争は幕を閉じました。

明治と改元

1868年（慶応4年）4月、江戸城無血開城の会談で、旧幕府の武装解除が決定した後も、旧幕府海軍副総裁であった榎本武揚は、徳川家に対する処置を不

服として、新政府への軍艦引き渡しを拒否し、同年8月には新政府に不満をもつ旧幕臣とともに、「開陽」「回天」など旧幕府の軍艦8隻を率いて、江戸を脱出しました。途中、仙台に寄港すると、大鳥圭介や土方歳三など会津戦争で生き残った旧幕府軍の兵士らと合流しました。総勢2500人もの勢力となり、蝦夷地へ向けて出港しました。

10月、蝦夷地に上陸した榎本軍は、箱館に進軍し、新政府の箱館知事がいた五稜郭を占領しました。11月に蝦夷地を制圧し、12月には、箱館で蝦夷共和国の自立を宣言しました。選挙によって初代総裁に就任した榎本武揚は、新政府に新国家の承認を求める嘆願書を提出しましたが、新政府はこれを拒否し、蝦夷地平定を目指して政府軍を派遣しました。

兵力に勝る新政府軍は各地で圧勝し、1869年5月には箱館に上陸。新政府軍の艦隊が砲撃を開始すると、追い込まれた榎本軍は5月18日に降伏しました。新政府軍は戊辰戦争を終結させるとともに、全国を平定しました。

ヘボン塾の1期生の林董も榎本武揚に従って、箱館戦争で戦いましたが、榎本と共に降伏し、江戸へ送られました。その後、英国公使館で通訳となり、明治4

年には岩倉具視の米欧派遣使節団に同行しました。新政府は1868年（慶応4年）9月8日に元号を明治に改元しました。

廃藩置県

明治新政府は、江戸時代の封建的支配体制から脱し、中央政権による近代的な統一国家の建設を目指し、その第1段階として、1869年（明治2年）1月には、薩長土肥の4雄藩が領地と領民を朝廷に返す版籍奉還を行い、6月にはすべての藩にも版籍奉還を命じました。藩主は知藩事に任命され、石高の代わりに家禄を与えられたため、実質的には藩体制が存続したままでした。一方、明治政府の直轄領（旧幕府直轄領）では、厳しい年貢の取り立てなどに反対する一揆が頻発し、誕生したばかりの政府を脅かしました。このような状況を打開するためにも明治政府は、1871年7月、一気に藩体制を廃止する廃藩置県を断行することになりました。

岩倉使節団

1871年11月、岩倉具視を全権大使とした使節団が1年10か月にわたる外遊に出発しました。この使節には大久保利

通、木戸孝允、伊藤博文らの明治政府首脳が派遣されました。

使節団の目的の1つは、旧幕府が欧米諸国と結んだ日米修好通商条約など不平等条約の改正予備交渉にありましたが、各国との交渉は不調に終わりました。もう1つの大きな目的であった欧米の制度や文物の調査研究に関しては、『特命全権大使米欧回覧実記』からその様子を知ることができますが、欧米の先進文明に触れた使節達は、富国強兵と殖産興業の必要性を痛感し、帰国後の政策に影響を与えました。

明治政府の重要人物たちが欧米の先進文明を直に見聞してきた意義は大でありました。しかし、国家の黎明期に政府首脳が多くが国を離れたことによる問題点もありました。大久保利通らは、国内に留まった西郷隆盛らの政府要人に対して、新たな国内改革を控えるように釘を刺しましたが、その約束は守られませんでしたが。徴兵制度や地租改正が進められていたために、使節団が帰国後、政府内では外遊組と留守政府が対立することになりました。

翻ってみれば、生麦事件が近代国家成立のきっかけになったことは歴史的に重

要な意味を持つと言えます（2019年9月5日・公開フォーラム）

筆者略歴（こぐれ みきお）

1945年東京都中央区生まれ。68年明治学院大学社会学部社会学科卒業。64年ボーイスカウト海外派遣団員として米国へ派遣。97年永年の功勞により、ボーイスカウト日本連盟2級功勞章「たか章」を受章。2005年早稲田大学第一文学部にて博物館学芸員資格取得。06年韓国、中国の青少年教育施設視察指導者派遣に参加。同年The International Guild of Knot Ties総会（英国）に出席。以後、毎年出席。17年日本文化振興会より最高功勞賞「国際アカデミー賞」受賞。ボーイスカウト日本連盟出版委員、広報委員、リーダートレーナー、東京連盟副コミッショナー、理事、地区委員長を歴任。

さくらびと

北に帰った人たちが残していったもの

細川呉港（会員）

30年ぶりに函館のいとこに逢いに行っ

た。85歳の女性である。今は引退しているが、大きな病院の総婦長を長年勤めてきたので歳をとってもしっかりしている。若いとき、といってもまだ未成年のとき、看護婦見習いとして満洲の本溪湖の病院に行き、終戦のとき病院ごと八路军に接収され、軍とともに満洲を点々と。蒋介石軍に追われて鴨緑江を越え、朝鮮に逃げたこともある。朝鮮に入れば、蒋介石軍は入ってこないから安心だといわれたという。紅軍に接収された病院は、病院長も医者も、そして彼女のような未成年の看護見習いも、みんな同一賃金をくれたので、これでは「不平等」ということで、日本人だけ集まって給料を全員から回収し、それなりの役柄に応じて再配分

したという。

30年前にその彼女の父親、つまり私にとっては母方の伯父の葬式に行って以来の再会である。伯父、つまり母に兄がいるというのを知ったのは、私がもう成人してからだった。それまではまったく知らなかったのである。母にしても、60歳を過ぎて、隠していた今までの過去を、子どもたちに話し、また自分自身も高齢の「兄」と交流をしなければ、と思ったのであろう。

過去を隠していた理由はこうだ。母の母が、その昔、後妻に入ったのである。そのあとに生れたのが、母の姉妹だった。だが生き別れの先妻の子が、それも男の子が2人いた。その男の子にとっては、祖母はいわば継母になる。なぜ先妻が、

子どもを置いて帰ったのか、そのころどのような生活をしていたのか、分からない。

残された2人の男の子は、継母の元で育った。いや育っていたのだが、すぐに家を飛び出した。おそらく未成年のときであろう。そのころは16、17歳で丁稚奉公に出されるのがあたりまえの時代ではあったが、兄は東京の鉄工所の職見習いに、弟もそのあとを追って東京に出た。家出同然だったろう。兄はその後北海道に渡ったという。2人とも、よほど継母のもとで居心地が悪かったらしい。気の強い祖母であった。それに腹違いの、つまり私の母の姉妹が次々に生れた。

とにかくそのころの状況は詳しいことは分からない。その北海道の、明治32年生れの伯父というのが、30年前に亡くな

り、その葬式に来たのが、私が函館に来た最後だった。その伯父の娘、今は85歳の娘が私にとっていとこであった。イカ釣り舟の入る港の家から、山の手の湯川の温泉に近い、そしてトラピスチヌ修道院にも近い、住宅街に新しい家を建てていた。庭も広い。

亡くなった伯父についても、詳しいことは分からない。家出して東京に来た弟を、自分の勤める鉄工所に入れておいてから、自分はひとり北海道に渡ったという。いい仕事があったら、弟を呼び寄せるつもりだったらしいが、ついに実現しなかった。大正の初めはまだ北海道も開拓の時代で、多くの人が一攫千金をもくろんで北海道に渡ったという。伯父もそのひとりだったのだろう。

生前に一度だけ私が直接伯父から聞いた話では、何でも小樽から船に乗って、カムチャッカに渡り、ソ連の蟹の缶詰工場で働いたこともあるという。獲れた蟹をできるだけ早く缶詰にするために、シーズンになると人手はいくらあっても足りないくらいだったから、現地ではいつでもすぐに雇ってくれたとも。そのころはパスポートとかビザとか、そんなものはなかったから、好きなときに船に乗って

ロシアに行けたらしい。私はカムチャッカの工場で、伯父がロシア人に混じって、蟹をさばいている光景を想像した。

これも母の生きている時代に聞いた話だけれど、伯父が北海道に渡ったのは炭鉱で働くためだったという。九州の筑豊炭田に少し遅れて、北海道でも石炭は黒いダイヤといわれ、明治以降の日本の産業革命の推進力だった。西日本では「遠賀川沿いの煙突（つまり炭坑）」を目標にしていけば、すぐに雇ってくれ、毎日銀シャリが食える」といわれたように、北海道でも各地で石炭が掘られた。なかでも、空知、夕張の石狩炭田は埋蔵量が日本一といわれた。時給がよかったか、あるいは目先の給料が高かったのか、伯父は宣伝文句につられて北海道に渡った。

ところが、それが罠だった。いったん炭坑の宿舎の「たこ部屋」に入ると、厳しい重労働が待っていて、やめようにもやめれない。しかも逃げようにも監視がついていた。遊廊と同じで、支度金とか北海道までの旅費とかいろいろな前借り、契約をタテに、何年間かは「たこ部屋」から抜け出せないのだ。

母からの間接的な話だから、どここの炭鉱か、どこまで本当の話か詳細は分からない。今となっては確かめようもないの

だ。しかし「たこ部屋」の話は若い私にとって強烈だった。多くの若者が、甘い言葉につられて、北海道の炭鉱に出稼ぎに行ったのだろう。

とにかく、無一文で北海道に渡った伯父は、その後、いろいろな仕事を転々とし、晩年、私が逢ったときは、タイル貼りの職人であった。少し昔は、風呂場や流しがタイル貼りで、これを貼るには特殊な技術がいり、日当もかなりいいと聞いていた。娘の建てた新築の家の風呂場は、特別に彼がタイルを貼ったという。とにかく伯父は波乱の人生を送っている。

朝食前、いとこの家から、朝の散歩に出た。住宅街といっても緑が多く、春とはいえまだ肌寒かった。もともと、街路樹や、よその家の庭の木や花を見て歩くのが好きで、知らない町のしかも日ごろはなじみのない北海道の草木である。本土ではお目にかからないような直径1メートル以上の大きな針葉樹が何本も生えている庭もある。立ち枯れて木肌のない木の空（うろ）から、桜の木が生えていて、それが枝を一杯広げてちょうど花が満開であった。桜はよく空から生えることがあるが、土台の木も大きく、また咲いた桜も見事だった。桜が生えている空が、



枯れた大樹の空（ウロ）に生えた桜の木

すでに4メートルも上にあり、そこから桜が生えているので、高くて何という桜か分からない。まるで巨大なオブジェか、前衛の生け花のように見える。さすが北海道はスケールが違うと思った。

10分ほど北に向かうと、公園があった。「見晴公園」と書いて「みはらし」と読む。住宅街にある公園と思って何気なく入ったが、かなり大きかった。入るにしたがって、どんどん奥が深くなる。杉や、ヒノキ、楓の林がある。赤松もある。大きな池があってその傍らに書院造りの茅葺きの古風な邸宅。少し離れたところに洋風の古い大きな温室もあった。あとで分かったことだが、なんと4万坪以上あるということだった。これは並の公園ではない。これも後に聞いた話だが、この公園は「香雪園」と言って、もとは函館の豪商、

岩船屋という呉服商の別荘だったのだそう。それにしても広い別荘である。

話が横道にそれるのを承知であえて説明すると、この別荘のもとを作ったのは、新潟出身のヤスという女性。江戸時代の文政15年（1818年）の生れだという。一度は結婚したが亭主が大酒飲みで離婚。ヤスは父親をはじめ一家を連れて函館に来る。心機一転、新天地を求めたのである。

最初は駄菓子子の行商から始めたが、父親が死亡。伝聞によるとその父親の遺骨を持って、ヤスは高野山に行ったのだという。本当かどうか分からないが、そこで上方の親切な呉服屋と知り合い、綿の下着や、呉服の商売を函館でするように勧められた。援助も受けたかもしれない。おそらく上方で仕入れた反物や呉服を、北前船で小浜か敦賀から函館に運んだのであろう。

ヤスは誠意を持って商売に励み、店は次第に大きくなり北海道の各地に販売するようになったという。のれんは2代目岩船峰次郎、3代目峰次郎と受け継がれ、函館では押しも押されぬ豪商になった。岩船という名字は、ヤスが新潟の岩船郡出身だったから。岩船屋は明治35年から

別荘のあった「香雪園」の造園に取りかかり、2代目、3代目を通じて、たくさん木を植え、池をつくり、大きな庭石を入れたという。

しかし、岩船屋は、単なる豪商ではなく、ヤスの時代から貧しい人たちにも目を向け、常に庶民の側に立って数々の慈善事業もやっていたから、庭園も早くから一般に開放した。自分も赤貧を洗うような生活の中から立ち上がったからだ。今では函館市の庭園として古風な別荘とともに「名勝」、国の文化財にも指定されている。

広い庭園である。朝早いから誰もいない。私は杉やオシコの木を縫うように歩いたが、ふと気がつくと、足元の小道から少し離れたところに、小さな石碑があ



函館見晴公園の「日朝友好の桜」碑

るのを発見した。注意しないと気がつかないほどの灰色の自然石の石碑である。近づいて、しゃがんで読むと、「日朝友好の桜」と書いてある。昭和44年、函館市が建立している。

「日朝」？と私は考えた。日韓ではない。とするとこれは北朝鮮、朝鮮民主主義人民共和国に関係のある石碑ではないか。しかも「桜」とあるのも意味が分からない。

そこで私は、園内の案内所を尋ねた。「緑のセンター」といい、研修室や図書館、休憩室やホールもある立派な建物である。学芸員というか緑化普及担当の女性（中者徳子さん）に聞くと、意外なことが分かった。

今から57年前、昭和34年（1959年）に函館近辺にいた朝鮮の人たちが祖国「北朝鮮」に集団で帰ったのである。そのときに彼らが記念にと、桜を千本、この香雪園に植えて行ったのだという。

私はびっくりした。石碑は、桜植樹の記念に、函館市が、木を植えてから10年後にこの「日朝友好の桜」の碑を建てたのだという。「革新」の市長だったと。植えてから10年もたち、そのころおそろく桜が大きく育って見事な花を咲かせていたのだらう。

今ではあまり話題にもならないし、若い人たちは知らない人が多いと思うが、戦後1960年代に、日本にいた多くの朝鮮の人たちが祖国に帰るといふ運動が起こった。戦前に朝鮮から日本に来た人たちは、戦後朝鮮がふたつの国に別れたためにどちらに帰るかが問題であった。南北分断である。北は社会主義国、南は自由主義体制であった。

運動は、北朝鮮に帰る「北朝鮮帰還運動」である。南の韓国政府は当然のことながら、日本にいる朝鮮人が北に帰ることに反対した。在日の朝鮮の人たちは南から来た人も多かったからである。

しかし、1959年の12月14日、新潟港からの第1陣を皮切りに、多くの朝鮮人が集団で北朝鮮に帰った。その後84年まで帰還運動は断続的に続き、全部で、9万3000人以上。その中には、朝鮮の人と結婚した日本人妻や子どもたち、つまり日本の国籍を持った人も7000人近くいた。戦前に南朝鮮（韓国）から来ている人も多く、また親や兄弟は北にいる人も。朝鮮動乱で、戦乱を避け、北から南に移動した人も多かった。

もともと戦前から日本には多くの朝鮮の人たちが来ていた。中には私の伯父のように、「いい仕事があるとか」「給料が

いい」という甘言にノセられて、やってきた人も多い。もちろん、戦前は日本と朝鮮は一体だったから、自主的に出稼ぎに来た人もいる。戦後は、終戦から3年後、1948年に起こった犠牲者6万人とも言われる済州島民虐殺事件、1950年に勃発した朝鮮戦争の逃避者もいる。いずれにしても、多くの朝鮮の人たちが戦後の日本にはいた。その人たちが「祖国北朝鮮」に帰ったのだ。この問題に韓国は一貫して反対し、日本にいる工作員や、あるいは韓国から潜入した工作員が帰還の妨害工作まで行なった。その1

つが新潟帰還事務所の爆破である。在日朝鮮人が、韓国ではなく、社会主義の朝鮮民主主義人民共和国に帰るのは、政治的にも韓国にとっては大きなマイナスになるからであった。その韓国もまだ貧しかった。私も昭和46年（1971年）に韓国をひとりで回ったが、韓国は朝鮮動乱のあとまだ復興できないでいた。小さな子どもが街頭でたばこを1本、2本とバラで売っていたし、貧しい人たちが多かった。

北朝鮮への帰還運動は、当時は日本の多くの新聞社も、とくに「知識人」はこの問題に対しては一貫して北朝鮮に帰ることに「賛成」だった。多くの学者や歴

史家さえも、社会主義に対して理想郷を夢見ていたからである。

北朝鮮の日本での司令部である朝鮮総連は、北朝鮮は「地上の楽園」であると宣伝した。日本の新聞にもこの文字は踊った。このころ出版された、寺尾五郎の『38度線の北』は北朝鮮讃歌の典型的な本である。

私が覚えているのは、ずっとあとだが中国で文化大革命が吹き荒れていたころ、北京にひとりだけ「追放」されないで残っていた朝日新聞の秋岡家栄特派員が、人民日報の報じる記事を連日1面で転載し、結果的には「文革讃美」を繰り返したことである。しかも北京から平壤に飛び、わずか3、4日滞在して、当局の話を聞いただけで（そのころは北京特派員が北朝鮮もカバーしていた）新聞の全頁で「発展する北朝鮮の農業、工業」というタイトルでトラクターなどの写真を載せ、大特集を組んだことである。北朝鮮は「理想」の社会主義国家であった。秋岡家栄はその時の「功績」により、その後日本における人民日報の総代理人となっている。

その「地上の楽園」である祖国に帰った人たちが、実はそうではなく、かなり困窮な生活を余儀なくされている、言論

の自由がない。それにどこに行ったか分からなくなった人も多い——、ということがさやかれるようになったのは、ずっとあとである。亜紀書房という、社長が私と同郷の小さな出版社が出した『凍土の共和国』などは北の実態を告発した数少ない本の1冊である。

当時函館近辺にいた朝鮮の人たちは4000人いたという。そのうち何人が北朝鮮に帰ったか知らない。しかし、その人たちが日本を去るにあたり、なんと桜を見晴公園に千本植えて行ったというのだ。彼らは決して日本に対していい印象を持っていた人たちばかりではなからう。つらい思いの方が多かったのではないか。それは、「たこ部屋」に詰め込まれていたたり、あるいはカムチャッカまで出稼ぎに行った私の伯父だけではなかったろう。とくに戦争末期の、2、3年間は多くの日本人も塗炭の苦しみを味わったし、まして朝鮮の人たちにおいてはである。記録によると、この時植えられた桜は、ソメイヨシノ、普賢象、関山（かんざん）ほか——、となっている。北海道に自生の大山桜をのぞいてはおそらく里桜、いわゆる園芸種が多かったと思われる。私は最初、なぜ桜なのか疑問に思った。朝

鮮の人たちなら「木槿（むくげ）」が最初に頭に浮かんだからである。朝鮮の人たちが自分たちがここにいたあかしに、自分たちの「国の花」である木槿を植えて帰るのがごく普通のことではないかと思われた。それをあえて日本人の好きな桜にした——。

私が子どものころ、田舎の近所の家に紫の花の咲く木槿の木が1本あった。夏になるとたくさん花を一齐に咲かせる。そして暑い夏の間中、毎日次々に咲き続けるのだ。母がいつも「きれいなね」と言っていた。そういった花のある家からやましくもあった。今東京のわが家にはこの紫の木槿が満開である。

夏に咲く花は、百日紅（さるすべり）くらいしかないから、木槿はとても貴重である。百日紅にも白、赤、ピンク、そして紫もあっていろいろだが、群がって咲く百日紅は、やはりなんとなく余計、夏が「暑い」気がする。余談であるが、夏の暑いときに、観光客の多い「広島」の平和大通りには、この百日紅の花が街路樹としてたくさん植えてある。「八月の広島」だからである。

脱線ついでに、百日紅について話すと、私はアメリカで不思議な体験がある。1984年にルイジアナ州ニューオーリン

ズに行ったことがある。ジャズで有名な町だが、もともとはフランスの植民地で、カソリックが多い。その町の中にある、白い教会（セントルイス大聖堂ではない）の周囲の広場がまるで芝生のような紫の花で埋められていた。何だろうと思って近づいて見たが分からない。しゃがんでみると、なんとそれが百日紅だった。高さ10センチほどの百日紅が、まるで芝生のようにぎっしりと植えられているのだ。私は驚いた。百日紅の木がこのように植えられているのを見たのは初めてだった。なるほどこのようにすると芝生のように見えるのかと。日本では、その白い斑点のある茶色の幹も鑑賞するということで、日本庭園には必ず植えられている百日紅である。所変われば、まったく違う植物のように見えるのも不思議だった。しかも背景は白い教会である。

不思議だったのは、その白い教会の四隅に巨大な樹が4本植わっていたことである。これがなんと泰山木（たいさんぼく）だった。ご承知のように、泰山木は中国でも古くから格調のある品のいい木として大切にされている。白い花びらの大きなマグノリアである。この木で有名なのは上海の魯迅公園である。私の田舎の庭にもあったからよく知っている。6

月になると大きな白い花が次々に咲いていた。そのもっとも東洋的な木だと思っていた泰山木が、なんと教会のシンボルとして植えられているのだ。百日紅といい、泰山木といい、場所によってはまったくイメージが変わるものだと思い知らされた。樹にもそれぞれ「人格」があるが、まるでその人格が変わったようだった。

話をもとに戻そう。

桜は向日性の木である。日が当たらないと成長しない。それに園芸種だと余計、病気や害虫、風雪にも弱いのである。寿命も長くないと思われる。そのためか、「日朝友好の桜」の碑のまわりに桜を捜して歩いたが、40年たつというのにあまり木が残っていないのである。あっても細い、枝の少ない今にも倒れそうな木ばかりであった。「千本の桜」の面影はほとんどないといっている。おそらく周囲の針葉樹、常緑樹の成長に押されて、木の勢いが衰えたのであろう。北朝鮮に帰った人たちが、どのような思いで、自分たちのいた函館に「桜」を千本、残して行ったのかその思いは計るべくもないが、いずれにしてもわずかばかりの木しか残っていないのである。この公園に来る多くの人も小さな石碑には気がつかないだろう。

その千本の桜の名残を、接ぎ木して、あるいは芽を継いで、残そうとしている人がいることを、前述の緑のセンターの中者徳子さんが教えてくれた。北海道新聞の切り抜きまである。それによると、函館では有名な「桜守」の浅利政俊先生（もと小学校教師）が、自分の家のオオシマザクラの台木に見晴公園の友好の桜の芽や枝を継いで、育てているというのである。そのうちの1本、普賢象を、2001年に新たに見晴公園に植えた。1959年に朝鮮の人たちが植えて行った千本の桜は、今では百本ほどがかるうじて残っているとも。浅利先生はその人たちの思いを、後世につなぐと思ったのだ。このままはおいておくといずれ消滅してしまう。

「40年前に函館を後にした人たちが、あるいはその2世、3世でもいい。いつの日かここに帰ってきて、この桜を見てほしい。そういう日が来ることを願っている」と浅利先生。半年後、函館の北、生れ故郷の七飯町に先生を訪ねた私に、先生はそうおっしゃった。浅利先生は、小学校の先生をしながら、桜の品種を100種類以上作り出した人で、「桜守」として有名。松前城の桜を保護育成した。

昭和6年（1931年）生れ、浅利政俊85歳。彼がなぜ、帰国した朝鮮の人たちに、思いを寄せるのかというと、それには理由があった。

浅利先生が12歳のとき、昭和18年のことである。近所の素封家の家に、竹本和夫という青年が居候をしていた。実は竹本というのは日本名で、本当は朝鮮人であった。それだけなら珍しいことではない。函館ではあちこちに朝鮮人労働者がいたからである。上磯（現北斗市）の太平洋セメント工場の作業員として、そのセメントの原材料をとる義朗鉾山の石灰石の採掘と運搬作業に、また戦前の青函連絡船の栈橋であった有川栈橋では荷物の陸揚げ、積み出し、また函館ドックで働いていた人たちが、あちこちに朝鮮の人たちは大勢いたからである。

素封家Sの家はかつて村会議員までやった家だが、息子を兵隊にとられて、働き手がいなくて困っていた。それで竹本青年に畑や田んぼの仕事、馬の世話を手伝ってもらっていたのである（当時日本中の町や村には、男の数が極端に少なかった。みな兵隊にとられていたからである）。

実はこの竹本青年は、空知の炭坑の

「たこ部屋」から逃げ出して来た労働者だった。つまり「追われる身」だったのである（当時石狩炭田は日本最大の炭坑で、北を空知炭田、南を夕張炭田といった）。

竹本青年が、どのようにして函館まで逃げて来たのか知らない。おそらく本土へ一番近い函館まで来て、身を隠してS家で働いていたのである。村の警察官が近くに来ると、彼はすぐに馬小屋の奥の2階の藁の中に潜って隠れていた。

当時12歳だった浅利先生は、兄といっしょによく竹本青年に遊んでもらったという。近所の川でも泳いだ。彼はすでに朝鮮で大学を出ていてたくさん知識を持ち、いろいろなことを浅利兄弟に教えてくれた。朝鮮の歌も教えてもらった。アリランの歌も、日本語と朝鮮語の両方を教えてもらったのである。

ところがある日、戦争も押し迫った昭和19年か20年に、竹本青年はどうしても故郷の母親に会いたいから朝鮮に帰るといいだした。

津軽海峡を渡って新潟か、あるいは本州の下関まで行き、日本海や玄界灘を渡るというのである。まず竹本青年は貨物列車に隠れて乗り、青函連絡船で青森を目指した。貨物列車に隠れて乗るのに、浅利先生と兄が手引きをしたという。浅

利兄弟は途中まで見送りに行ったが、そのとき手を振って別れたのが生涯の別れとなった。竹本青年はその後どうなったか、消息は現在までまったく分からない。果たして朝鮮まで帰れたのか、青森までたどり着けたかどうかも分からないままである。

それから73年、浅利先生も85歳になった。竹本青年は浅利先生より、10歳は年上であつたろう。なにしろあの時は終戦前のどさくさである。あるいは日本のどこかに、そのままいるのではないかと思ったりしたこともあったが、おそらくもう生きてはいまい――。

見晴公園に残る朝鮮の人たちが植えて帰った桜。その桜が今、そのすべてが枯れてなくなろうとしている。浅利先生は、多くの「北に帰った人たち」の植えた桜、夢を託した桜を、今1本1本、再生させようとしているのである。今でも、その人たちが北朝鮮のどこかで、日本を去るとき植えて行った桜のことを思い出しているだろうか。いつかは、その子どもが、あるいは孫が、再びここに来て、この桜を見てほしい――。浅利先生はまた、戦後もずっと函館に残っているさまざまな朝鮮の人たちの「人生の聞き書き」を続けている。

陶々俳壇

ようよう

兼題「後の月」「飼」 席題「霧」

柿を喰ふ日本人であると思ふ
易からぬ手術をはりぬ後の月

上野京

☆○満州の広野を照らす後の月（紅杓）
稲妻のあばれ廻りてのち閑か

佐藤若杉

○子規庵を訪うて帰りや十三夜
○新築の槌音高し秋日和

大内善一

潮騒やこよひ奥能登後の月
富士望む蓼科の尾根をみなへし（仁哉）

橋本紅杓

☆○川舟に鷗舞ひきて秋うらら（由紀子）
後の月見上げ句作に四苦八苦

柳原仁哉

あふむけに寝ぬる飼猫後の月
霧雨やまだ抜けきれぬ昨夜の酔（善一）

馬場由紀子

☆最高点 ○由紀子選（一）各自特選

選後評

馬場由紀子

霧霽れの渋滞解けし峠道

善一

山の霧は恐い。あつという間に数歩先が見えなくなってしまう。車を運転する者にも強い緊張が強いられる。その霧が晴れたのだ。運転手たちはホッとして先を急ぐ。

せせらぎの町へ出ずるや後の月

紅杓

旅先の景だろうか。町中を小川が流れるというからには、よほどの田舎町だと思われる。清らかな水が巡る町に十月の月がきれいである。夜の散策に出かけたくなる。

幽玄や六甲山に十三夜

仁哉

六甲山から見下ろすと一千万ドルの夜景が美しい。不思議なことだが、その夜景が天空の月の美しさを邪魔することはない。雲隠れに月が上り、その雲が風に掃かれて月が現れた時、地上の灯と天空の光が幽玄な調和をみせる。

易からぬ手術をはりぬ後の月

京

八十八歳にして整形外科の手術を受けた。普通なら気持ちが悪くてもしょうがないが、作者にはそんなベシミスティックなところは少しもみられない。日本的高度医療への賛辞が止まない。

九十の友死に給ふ後の月

若杉

若くして友を失うのも悲しいが、年老いて失うのもやはり悲しいものだ。共に長く生きてきた分だけ思い出も多い。今宵ばかりは男泣きも許して欲しい。後の月は美しく優しく光っている。

無力

馬場由紀子

九月の台風15号以来、千葉は風や雨に祟られてばかりだ。我が家は運良く15号でも19号でも災害からぎりぎり免れた感がある。それでも何人もの俳友が停電に見舞われたり、家屋の破損を被ったりと大変な思いをされた。自然災害を前にして己が無力をほとほと感じるに至った。

無能無芸にして何もできずに、買い物ついでに募金をして、あとはうじうじと句を捻るくらい。

月天心屋根のシートの青光り

由紀子

5日間の停電にみまわれた方が、ずっと星や月を眺めていたと飄々とおっしゃったのだが、聞いているこちらの方が胸痛くなる思いであった。いまだ屋根に残るブルーシートが虚しく光っている。

安房の復興の目処はたっていないが、

安房路いま底抜けの晴れ唐辛子

由紀子

という句を作った。田舎では畑の隅によく見かける真っ赤な唐辛子。その色も、実の付き様も、味も、小さいながら力が漲っているような植物だ。去年までの安房路にはきつと唐辛子が天をついて唸っていたことだろう。早くその光景を取り戻せるように祈りを込めた。無能無芸の縛りの句である。



編・訳 上松玲子

暗夜保護区構想とは

成都市（四川省）はこのほど都市の夜景照明に関する計画を發布した。この中で示された「暗夜保護区」の構想は全国に先駆けたものだ。

光汚染が深刻な現状だからこそ都市には「暗夜」を守る必要が出てきたのだ。夜、人々が見上げるのは星空ではない。摩天楼の照明や、広告のネオン、イルミネーション、LED画面が街中にあふれている。光汚染は景観だけでなく、動植物の生態を

脅かし、人々の視力や睡眠、情緒など健康を静かに蝕んでいる。

成都の構想は、「暗夜保護区」を設け、その周辺では必要な照明と色彩や明るさを抑えた照明以外の使用を禁止するというものだ。商業、飲食、旅行、娯楽などの消費施設が密集した地域で展開される不夜城やナイトエコノミーとは矛盾しない。

「暗夜保護区」に指定されるのは龍泉山森林公園や郊外などの環境調整区、住宅密集地区、工業地域などである。明るくすべきところは明るくする一方で保護区では人々が蛍や星影に照らされた木立を楽しむことができるようにするという構想だ。

『法制日報』2019年9月18日

深圳の教師は高給

先頃深圳市龍華区教育局の教師募集が發布されアクセスが集中している。区の公立小中高等学校の教師400人を募集するのだが、給与条件が大学卒は26万人民元以上、大学院卒は28万人民元以上というのだ。

これほど厚遇では全国からかなり優秀な人材が集まるに違いない。全国でも深圳の小中学校だけが30万という年収の教師を標準装備にしている。今年5月にも深圳市塩田区の新卒採用教師の税引き全年俸が29万と報じられている。

30万というレベルは現地のハイテク企業の平均給与よりも高い。だが、深圳市は求人も多く給与水準も高いため、教師もそれなりの収入が確保されなければ、教育の質を安定的に維持できないという実情に配慮していることなのだ。

これは、この数年来進む全国の教師の待遇改善傾向の縮図であることが、全国の教師資格試験受験者の大幅な増加からもみてとれる。2017年の受験者数は310万人だったが2019年は1千万人を突破している。教育の発展と経済の発展は相互に押し上げ合う関係であり、教師の待遇改善は都市の競争力と魅力を高めるものなのだ。

『新京報』2019年9月21日

さよなら羊こんにちは空港

9月、北京のさわやかな気候の中、64歳の斉国富さんはいつもと同じように転居して1年目の高層アパートのベランダで花たちに水をやる。南には10キロ向こうに北京大興国際空港のターミナルがくっきり見える。

「あの場所がうちのトウモロコシ畑だったんだ」。2003年当時、斉さんは礼賢鎮大馬坊村にいて、トウモロコシと麦が不作だったため、羊を飼い始めたところだった。年に2万円も稼げず生活は苦しかったそうだ。

2015年「移転通知」を受け取り、一家6人は2018年に正式に「上階に上った」のだ。マンション生活にも慣れ、生活の保障も増えた。毎月2千円の養老年金のほか、村の集団所有資産から毎年1万7千円の配当がある。医療保険の自己負担割合も減った。

9月25日午後、榆垓鎮東庄営村の張洪振さんは強い日差しの中、空港周辺で忙しく働く。今

年5月から新空港の鳥害防止対策作業員として雇われ、草地の管理、鳥の駆除、上空の監視などに当たる。とても光栄で責任が重い仕事だと彼は言う。

政策により、北京市の認定された業者は空港建設に使用した榆垓、礼賢など7つの鎮に戸籍のある失業者を雇用すると、最高年間2万円の補助金が最長5年間受け取れる。現在までに累計233の業者がこの政策を利用し約4千人が空港で働いている。また、これとは別に今年以降、大興区の1万8千8百人の農民が空港での就職を果たしている。

『新華毎日電訊』2019年9月27日

農村の高齢者に文化の光を

最近の高齢者中には「子や孫に囲まれる」生活に捕らわれず、自分自身の新生活を積極的を求める人たちがいる。子育てが終わった後はもう一度自分の番、余暇を充実させ豊かな晩年を送ろうという、こうした人々をメディアは「新老人」と名付けた。

老年教育を例にすると、20

18年末までに全国で各級各種の老年大学や老年学校が6万2千か所もでき、8百万人以上の通学生が在籍するほか、通信教育を受ける者が5百数万人おり、省、市、郷には老年教育ネットワークが形成されている。それでも、わが国の60歳以上の人口は2018年末現在2億5千万人に迫るため、老年大学に入りにくいというニュースも珍しくない。しかも多数の農村の高齢者にとっては、そもそも入れる大学がないという問題がある。特に若い者が出稼ぎに出て1人農村に残された「留守老人」の精神的・文化的生活には1人孤独に「ドラマを見る」以外の選択肢がない。現実離れた摩訶不思議なドラマやバラエティーは彼らの生活実感や過剰してきた日々とはあまりにもかけ離れていて、それらを見て彼らが癒されたり心が豊かになったりするのかわうかはなほだだ疑問だ。

高齢者だけの問題ではない。地域格差に目を向け、人里離れた農村にこそ教育資源が行き届

くように、情報通信技術を駆使するなど注力すべきではないか。

『光明日報』2019年10月9日

農村の若者を育てよう

日本で家族経営型農業の発展を、フランスで環境循環型農業を、オランダで高効率精密農業を学ぶなど、吉林省はこの3年間で400人以上の農民を海外に公費派遣し現代農業の基礎を築こうとしている。今日、脱貧困や産業育成、農村の振興を推進する上では農業を愛し、技術に精通し、かつ経営も理解する新型の職業農民を多く育成する必要がある。しかし、農村では相変わらず昔ながらの辛い作業に基づく農業が行われているという声をきく。若くて元気な若者が何か特色ある大規模農業をしたいと思っても、技術も経験もないことがその行く手を阻む。ぜひ他の地域も吉林省に習って、地域の意欲的な若者を海外へ公費派遣し、地域振興に役立ててほしいものだ。

『経済日報』2019年10月10日

介護職の資格を緩和

先頃配付された『老人介護員国家職業技能基準2019年版』で、老人介護員の就業条件が緩和された。学歴についてこれまで中学卒業以上だったものが「学歴条件なし」になったのだ。

2億4千9百万人の高齢者に対し介護職従事者は30万人しかないのだ。高い技能が求められるのに役職や給与は上がる余地が少ない、苦しく汚く疲れる、医療争議も頻発するなどが介護職員不足の原因である。今回の基準改定は葉と言えば、症状を抑える葉だが、当然、専門知識や技能のない者、思いやりのない者が紛れ込んで、介護の質が落ちるのではないかと危惧する声もある。そこで新基準では在宅や地域介護に必要な技能について必要な条件を定めた。

今後上級技能等級の取得期間を短縮し、職業としての魅力を高め、技術習得への意欲を喚起するなどの対策が必要だろう。

『広州日報』2019年10月18日

會員彼は

風まかせ

リヤカー放浪旅

中川啓造（会員）



「最後はどこに行くか」と問われ、「墓場」とその方は答えていました。この会話は、今回の主人公「田中清（仮名）」さんが、僕の携帯電話を借りて十数年振りに昔の友だちと交わした会話の最中、面白いなと感じ

た言葉を取り上げた次第です。田中さんとの出会いは、ほんの偶然から始まりました。

「善隣」2018年11月号にも書いた「宇和島シーズンワーク」ボランティアで行った、今年度2回目の作業後、地元の吉田公民館で「ボランティアの集い」があり、終了後外へ出ると、隣の公園に変わったものがあり近寄って行きました。

何とそれはリヤカーに小屋をくっつけたものでした。窓からのぞくと、男の人が繕い物をしているのを見掛け、声を掛けました。

「コンニチワ」「ハイ、コンニチワ」「これは何ですか」「リヤカーに手製の小屋をくっつけて旅をしているんだ。2018年6月10日に新潟を出発して日本海側から九州を回り、フェリー

で四国の八幡浜へ2日前に来て、今日ここに来たんだ」。

なるほど小屋に張ったトタン屋根には、出発点の新潟から始まり、富山、石川、福井、京都、兵庫、鳥取、島根、山口、関門フェリー、福岡、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、宮崎、九四フェリー、愛媛と続き、これから向かう高知が書いてあります。その脇には包丁研ぎ1本三百円、仮りの宿、借りの宿、蚯蚓屋（ミミズヤ）と続いています。

以前、民放のテレビ放送で、元高校教師が「田吾作号」と名付けたリヤカーに世帯道具一切を積み込み、世界を旅行しているのを見たことがありました。

「包丁研ぎをやっているんですか」と聞くと「年金は月3万円あるが、全部カアちゃんに取られて旅する資金がないので、頭をひねってさほど道具、技術がなくてもお金が稼げる方法としてこれを思い付いたんだ。最初は1回一百円としていたが、お客から安過ぎると言われ、字を足して二百円、三百円となっ

てきたそうです。「普通は五百円が相場だな」。

宣伝は、屋根に書いてあるのみなので、「なかなかお客が集まらなく、1日の生活費の目標1000円には到達しない」と、淡々と話されました。ですから出発したとき用意したお金が段々食い込んで厳しくなってきた、という話を聞いたので、「このミカン農家に知り合いがいてアルバイト先があるかもしれないので、聞いてあげようか」と言ったら、「頼む」という話からとんとん拍子になり、知り合いのミカン農家に電話したところ、さっそく彼が軽トラで飛んできて、話がまとまりました。

僕は彼の人生に興味を引かれたのですが、宇和島から去る日が明日に迫り、帰る準備に迫られて時間がなくなり、やむなく後ろ髪を引かれる思いでその場を去りました。

年が明けて落ち着いたところ、宇和島の知り合いのミカン農家に連絡を取ったところ、「まだいるよ、ミカンの収穫作業が一

段落する2月中頃までいそうだよ」と言われ、それじゃあ彼に会いに行こうか、という気になり、飛行機を手配して2月6日宇和島に1週間行くことになり、僕が滞在している間は留めておく、ということでした。

生活拠点Mポートと銘付った一軒家が確保されており、彼もずっとそこで生活していたので、僕も転がり込んで共同生活が始まりました。日中、清さんは馴染みになったミカン農家へ働きに行き、僕は知り合いのところへボランティアとして足を運んで過ごしました。朝、晩は同じ屋根の下で生活していたので、色々と話し込みました。

生まれは北九州市の若松区で工業高校卒業まではそこで過ごし、卒業後日本板硝子の京都工場へ1年4か月勤め、そこが合わないということで辞め、北海道へ行き牧場をいくつか転々として4年過ごされたそうでした。

同じ牧場で知り合った9歳年上の女性と同棲した結果、一緒

に行動し、ポーランド籍の貨客船に乗客12名の内の1人として乗船し、香港、シンガポール経由でインドにて下船したそうです。インドでは、ビザの関係でインドから出たり入ったりして1年を過ごし、国内のあちこちを旅行したそうです。そして、陸路でパキスタン、アフガニスタン、イラン、トルコを経由して欧州に入り、ギリシャではレストランでアルバイトをしながら1年以上過ごしたそうです。

都合4年を海外で送った後、途中知り合ったヒッピーから伊豆山中で自給自足の生活を送っているところを紹介され、25歳から住みついたそうです。

同棲していた彼女とも途中で別れ、山中で一人住まいをし、30歳になったら自力で茅葺きの家ならびに囲炉裏をこしらえたそうです。電気、ガス、水道なしの現代文明の恩恵を受けない仙人に近い生活を送っていたそうです。ただまるっきり原始生活を送るわけにもいかず、必要な現金は里へ下りて頼まれ仕事

をして稼いだ、とのことでした。

そうこうしているうちに物好きな若い女性、現在の奥さんに当たる人が現われ、縁があって結婚したそうです。伊豆の山中には18年住んで、それから奥さんの実家がある新潟の田舎に越してきてから早や18年過ぎたそうです。新潟では実家の水田を借りて稲作をして米を作り、畑では野菜も作り、食料は自給自足していたそうです。それでも現金が必要なため村では他の農家の手伝いをして日銭をとときき稼いでいたとのこと。お子さんは6人で、うち5人は順調に育ったそうですが、6番目の子どもが病弱で半年を経ないで亡くなったそうです。6番目の子どもさんとの対応で奥さんとぎくしゃくとなり、それが現在でも尾を引きずって夫婦間がしつくりいかなくなり、清さんが60歳のとき、奥さんから「あなたの最後の面倒はみない」と宣言されたそうです。

これは、僕の独断と偏見の推量ですが、妻がよい年をした夫

に対しても子どもに接するように口うるさく口を挟むことに嫌気が差し、また生来の放浪癖から「リヤカー放浪旅」に出たのではないか、と思われます。この旅の終わりは、本人によると、俺ないしはリヤカーが壊れるか、もしくは恋に落ちるかだとのこと。それからリヤカーの屋号になっっている蚯蚓は、自分に適した生存環境があればどこへでも動いて行くそうなので、それから名前を取ったとのこと。

僕は人相を観るのが趣味なのですが、最初にお会いしたときに蚯蚓に似ているな、と直観しました。正直な話、僕も清さんに同じ匂いを感じたので引かれた、と思います。

おしまいに、僕の敬愛する食生態学者、西丸震哉先生の名言、「カンオケに入ったとき やりたいことは かなりやったな」とニンマリ出来る 自分でありたい ネェ あんた？」を結びの言葉とします。 合掌

書籍紹介

とななおき
十名直喜著 『企業不祥事と日本の経営』

―品質と働き方のダイナミズム― 晃洋書房

志村照彦（会員）



著者は、神戸製鋼所に21年勤務し、その後京都大学大学院経済学研究科博士課程を修了し、名古屋学院大学経済学部助教授、教授として23年（大学院も含め）教育指導した方で、2017年から2019年1月末頃

まで、一連のものづくり日本企業の近年の不祥事に関し、個々の事件の実態を丹念に調査フォローしている。一連の日本企業の品質不正の詳細は本文では省略するが、著者が調査対象にされた主な企業不祥事例を挙げる。

素材メーカーの日立化成の自動車用バッテリーなど28製品の検査不正に関する発表。

②機械メーカーの品質不祥事として、日産自動車の国内工場での無資格従業員に検査員の名義を使わせて新車の「完成検査」の不正、またこれと同じようなSUBARUの品質不正発覚、さらに同社の燃費・排ガスの測定データの不正。

③運輸安全委員会で重大なインシデントに認定された2017年12月11日の報道によるJRX日本の博多発東京行き「のぞみ34号」での、焦げた異常な臭いが小倉駅で発生した事件。JR西日本によると、製造元の川崎重工業が台車枠の底面を不適切

に削ったことが、亀裂発生による臭いの原因。

④2018年8月初旬にスズキ、マツダ、ヤマハ発動機の3社が新車の出荷前の品質管理検査でルールを逸脱する不適切な対応をしていたと発表。さらに社会を震撼させたことは、10月中旬の油圧機器大手メーカーのKYBが建物の免振・制振装置で性能検査データを長年にわたって改ざんしていた事件。

①2017年頃から2019年明けにかけて、大手メーカーの神戸製鋼所、三菱マテリアル、東レの製品品質のデータ改ざん、および大手化学

このように続発する品質不正は、日本の経営さらにはメイド・イン・ジャパンへの内外の評価と信頼を根底から揺るがしている。それは、過労死・うつ病などが多発する日本的な働き

方とも深く関わっている。両者をつなぐ要をなすのが、日本的な品質管理（いわゆる日本的TQC）および能力主義管理（それにに基づく職能資格制度）である。1990年代後半以降、人事・雇用システムに大きな変容も見られるが、能力主義管理に由来する無限定労働は今も支配的で、全階層に及び曖昧、働きがいがかめない職場が少なくないからである。

さらに著者は高度成長期には、日本的な働き方（無限定労働）と品質管理（全員参加の品質つくり込み）による高品質・低コストの「好循環」を生み出したが、内外環境が大きく変容する中、品質と労働の不祥事を超えた新たな品質管理と働き方システムの創造が求められていると指摘している。

欧米では経営層が不正を支持するケースが多いが、日本企業では現場が付度した結果、不正に発展する場合が多く見られる。「カイゼン」にかこつけて、問題の解決を現場に放り投げ、

現場では、コストと納期を守るために、不正に手を染めるケースが目立つ。現場のひずみに目をつぶり、不正に追い込んだ経営の責任は重く、「経営内の問題の75〜85%は、組織によって引き起こされる。個々の労働者ではない」とこれは日本品質の育ての親、米国のデミング博士の言葉である。その警鐘に真摯に耳を傾ける必要がある。

日本における品質管理の主な変遷について、1960年代中期〜80年代前半は、日本的TQCの発展期に当たる。品質のつくり込み、全員参加、継続的学習、全国的な推進センターという4つの特徴が明確になり、定着・浸透・新展開が見られた。1980年代中頃〜90年代には、日本的TQCの衰退期へ入り、限界や問題が顕在化し、QCサークルの解散などTQCからの撤退が相次ぎ、減量経営のもと、品質管理はマスター済みというおごりや錯覚とも重なり、脱デミング現象など品質軽視の動きも顕著になる。それら

は、欧米でのデミング重視の動きと好対照をなし、日米再逆転の呼び水ともなっている。

QC活動は今や、海外とくにアジア諸国に広く普及している。しかし、日本では、低迷から衰退へと対照的な構図が見られる。過去の成功体験にとらわれた慢心や「神話」が、関係者の目を曇らせている。著者は、何よりも1950年代前半に横溢した字び心と謙虚さ、その原点に立ち戻ることが肝要であると説き、そして新たな再出発、すなわち時代の変化に見合う品質基準への見直し、機能的品質（利便性や安全性に代表される「機能的品質」を磨くこと）と文化的品質（「感動」や「大いなる満足」などの「動的な感性」、「安心」や「信頼性」などの静かな感性などにも応える「文化的品質」を高めていくこと）の融合など、新しい品質管理体制を構築していくことを提案し、その担い手あるいは受け皿となるのが、働き方や労使関係の相応しいあり方であると方

向付けしている。

早急に品質重視の経営に立ち戻り、品質管理を全社的に進める体制づくりや専門家の育成、品質の測定やデータ収集、解析の自動化などを進めていくこと、並びに科学や技術の進歩、社会や時代の変化をふまえた、具体的な品質基準の見直しを指摘している。これらは大学や研究機関を含めオールジャパンで取り組むことが重要であり、品質管理活動の理念についても、価値観の変化などをふまえ見直す必要があると述べている。

本書は、著者が品質と労働の不祥事という現実の諸問題に衝き動かされ、先行研究の数々に触発され、また諸問題と擦り合わせしながら独自の視点から捉え直して出版されたもので、当方は読者の一人として謙虚な姿勢で、問題意識をもって本書に接することができ、大変有益であった。

カホ会通信

◆10月度理事会の議題 (10月17日開催)

今月は、下記内容で審議を行った。

- 確認事項
- 9月19日開催の第6回理事会議事録(案)
- 決議事項
- 1、新会員入会審査の件
- 討議・報告事項
- 1、資金繰りについて
- 2、中間決算について
- 3、各常任委員会報告
- 4、事務局から
- ① 11月21日理事会終了後消防訓練をする。
- ② 11月28日は午後2時から「新会員歓迎懇親会」を開催、津軽三味線と民謡の披露がある。
- ③ 「我在中国75年」の日本語版を配布した。

(事務局長 戌亥芳秀)

会員だより

◎新会員

〈正会員〉

加来洋一郎氏
他2名

佐藤嘉信氏(協力会員より資格変更)

同好会だより

〈一石会〉

10月囲碁例会優勝 遠藤文夫氏

〈謡曲会〉

12月24日例会 実施予定曲目

曲目	役割	地頭
土蜘蛛	トモ神保 (頼光) 神保 (胡蝶) 宮下	宮下
田村	シテ村瀬 ワキ村瀬	宮下
天鼓	シテ宮下 ワキ神保	村瀬

みんなの写真館

八重山諸島の水牛の憩いの場 (表紙)

八重山諸島の中の1島、竹富島の観光牛車を引く水牛の憩いの場、池の風景である。

高速船で10分、観光客は年間約50万人、島民の7割が観光業に従事、水牛はその観光業の要として愛され貢献、都会の喧騒を離れのんびり島の空気が楽しめる。石垣に囲まれた伝統的建造物の家並みの砂地の道を、水牛を捌く車主に感心しつつ30分楽しめる。

十字路にさしかかるたびに、水牛が石垣の角に牛車が当たらないように間隔を取って曲がるのに驚く。排泄は陸では決して行わず、浅い海や池で行うという。水牛には各々名前があって、チャン付けである。呼ばれると寄って来る。出番まで常に池で憩う。実に

澄んだ眼をしている。

(伊藤正博)

中国のニュース番組とテレビ局から受けたインタビュー(表4上下)

天津の友人(Xiao Feng)から、微信(WeChat)で転送されてきた写真2枚。

(上) 中国中央電視台(CCTV) 中国新聞ニュースの番組に。

東京で7・7盧溝橋事変記念集会在話題になり、閉会後のインタビューを受けた。

(下) 香港鳳凰衛視電視台(Phoenix Media)、中国語圏向け民間衛星テレビ局の取材に。

中国大使館主催の春節(旧正月) 歓迎会がホテルニューオータニで開かれた際に、香港テレビ局のインタビューを受けた。

(新宅久夫)

2019年12月の行事予定

- 4日(水) 13:00 俳句会
兼題「炬燵、名」及び当季雑詠
- 5日(木) 14:00 ○公開フォーラム
「日韓関係の現状と展望」
小倉和夫氏(元駐韓国大使、国際交流基金顧問)
- 10日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 12日(木) 14:00 ○公開フォーラム
「渋沢栄一と北豊島商工学校」
大川時夫氏(職業能力開発大学校名誉教授)
- 13日(金) 11:00 一石会囲碁大会
- 17日(火) 14:00 謡曲会(松木先生稽古日)
- 19日(木) 18:30 ◎公開アジア研究懇話会
「習近平体制の特徴と今後の日中関係の行方」
村田忠禧氏(横浜国立大学名誉教授、当会学術顧問)
- 20日(金) 16:00 公開「善隣中国塾」シリーズ3 第4回
テキスト:『一帯一路からユーラシア新世紀の道』(日本評論社)
塾長:矢吹晋氏(横浜市立大学名誉教授、当会学術顧問)
- 24日(火) 13:00 謡曲会例会
- 25日(水) 14:00 公開「善隣古海塾」
「戦争の時代、そして満洲国を振り返る」第14回
塾長:古海建一氏(前当会会長、当会顧問)

※12月28日から1月4日まで、事務局はお休みします。

12月の会議予定

5日(木) 16:00	講演委員会	17日(火) 14:00	国際交流委員会
5日(木) 16:00	広報委員会	19日(木) 14:00	理事会(第9回)
10日(火) 10:30	環境委員会	25日(水) 14:00	東北委員会

※公開イベントへの会員外一般聴講者の参加費は、◎印:1000円、○印:500円、無印:無料です。
※下線は通常日程に変更あり。

【2020年1月最初の講演予定】

- 16日(木) 18:30 ◎公開アジア研究懇話会
「戦後日本の経済復興と賠償問題—東アジア地域統合と在外財産を中心に」(仮題)
浅野豊美氏(早稲田大学政治経済学術院教授、早大和解学研究所所長)

みんなの 写真館



INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)

<http://www.kokusaizenrin.com>